令和7年度

シラバス

第53期生

長崎市医師会看護専門学校　第２看護学科

学籍番号 _____

学生氏名 _____

目　　次

シラバスの活用について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
シラバスにおける実務経験の標記について　（第 2 看護学科）・・・・・・・・・・・・・2
教育理念　教育目的　目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
教育課程 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
カリキュラム構造について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
教育課程進度表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
各分野の考え方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
主要概念の定義・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14

１年次履修科目

基礎分野

論理学Ⅰ（文章表現）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
論理学Ⅱ（論理的思考）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18
心理学 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19
社会学・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
教育学・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
英語・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22

専門基礎分野

栄養と代謝（生化学/栄養学）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23
微生物学・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24
人体の構造と機能（解剖生理学/病態生理学）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25
病理学・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26
疾病論Ⅰ（呼吸器/循環器）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 27
疾病論Ⅱ（運動器/脳神経）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28
疾病論Ⅲ（消化器/内分泌・代謝/眼科/耳鼻科）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 29
疾病論Ⅳ（血液・造血器/免疫/腎・泌尿器/口腔/皮膚科）・・・・・・・・・・・・ 30

専門分野

看護学概論・・・

地域・在宅看護方法論Ⅰ（地域ケアマネジメントと多職種連携）・・・・・・・・・52
地域・在宅看護方法論Ⅱ（家族看護と在宅看護過程）・・・・・・・・・・・・・・・53
地域・在宅看護方法論Ⅲ（対象のくらしに応じた支援の実際）・・・・・・・・・・54
地域・在宅看護方法論Ⅳ（健康とくらしを支える技術の基本）・・・・・・・・・・55
老年看護学方法論Ⅰ（高齢者看護の基本・実践Ⅰ）・・・・・・・・・・・・・・・ 56
老年看護学方法論Ⅱ（高齢者看護の基本・実践Ⅱ）・・・・・・・・・・・・・・・ 57
小児看護学概論・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 58
小児看護学方法論Ⅰ（障害と治療）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 59
小児看護学方法論Ⅱ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 60
母性看護学概論・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 61
母性看護学方法論Ⅱ（周産期・新生児の看護）・・・・・・・・・・・・・・・・・62
精神看護学方法論Ⅱ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 63
災害看護と国際看護・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 64

３年次履修科目

専門基礎分野

関係法規・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 65

専門分野

看護管理と医療安全・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 66
看護研究・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 67
臨床判断能力・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 68

講師一覧表

資料１（１年次）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 69
資料２（２年次）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 70
資料３（３年次）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 71

シラバスの活用について

シラバスとは、学習の目標や内容、使用テキスト、評価方法などを明示し、授業の計画を示す文書のことをいいます。これを冊子にして皆さんに事前に配布する目的は、以下の３点にあります。

１つ目は、学生の皆さんにカリキュラムの全体像をつかんでもらうことです。これからの１年間あるいは３年間にどのような科目がどのような進度で計画され、どのような授業が行われようとしているのか、その全体的な流れや内容を見てほしいと思います。そして、看護専門職を目指す学生として長期的な学習目標・学習計画を立て、自律した学習行動を確立していって下さい。

２つ目は、各科目の授業開始にあたり、学習目標、学習内容、使用テキストなどを事前に把握し、授業への興味・関心を高め、予習に活用してほしいと思います。皆さんは准看護科で看護の概要を学んできていますが、さらに専門職としての知識、技術の拡大を図る必要があります。シラバス配布の最大のねらいは、学生の皆さんが主体的に授業に参加することにあります。事前にテキストを読み自ら考える姿勢や、講師に質問する学習態度があれば、同じ時間の学習を何倍もの成果に変えていくことができるでしょう。そのような学習にこのシラバスが活用されることを期待します。

３つ目は、本校を卒業後にもシラバスが必要になることがあるということです。皆さんの中には、本校卒業後、大学へ編入・進学しようと考えている人がいると思います。大学に編入・進学する際には、既習単位認定の申請という手続きがあり、シラバスの提出を求められる場合があります。卒業後も必要な場合があることを認識し保管しておいて下さい。

年度が替わっても科目設定の考え方、範囲、主要内容などについて変わることはありませんが、担当講師や使用テキストの変更、あるいは担当講師の授業過程において授業の進め方や内容が変更される場合があります。変更がある場合は、各講義の開始時に担当講師より資料などにて修正、説明がありますので、その内容に差し替えて保管・活用して下さい。また科目によっては、実際の授業内容に合わせて詳細な資料が配付されることもありますので、最大限に活用して下さい。

このシラバスが学生の皆さんの積極的な授業参加に役立つことを期待します。

令和７年４月

シラバスにおける実務経験の標記について（第2看護学科）

1－１　医師（看護師）：病院・施設にて医師（看護師）として勤務

1－２　医師（看護師）：病院・施設にて外科系（内科系、小児科、産婦人科等）の医師（看護師）として勤務

1－３　訪問看護師：病院・施設にて訪問看護師として勤務

2　助産師：病院にて助産師として勤務

3　保健師：市役所・企業にて保健師として勤務

4　理学療法士：病院・施設にて理学療法士として勤務

5　社会福祉士：地域包括支援センターにて社会福祉士として勤務

6　作業療法士：病院・施設にて理学療法士として勤務

7　精神保健福祉士：病院・施設にて精神保健福祉士として勤務

8　薬剤師：病院・施設にて薬剤師として勤務

9　管理栄養士：病院・施設にて管理栄養士として勤務

10　臨床検査技師：病院・施設にて臨床検査技師として勤務

11　介護福祉士:　病院・施設にて介護福祉士として勤務

12　臨床工学技士：病院・施設にて臨床工学技士として勤務

13　公認心理士：病院・診療所・施設にて心理士として勤務

14　臨床心理士：病院・診療所にて臨床心理士として勤務

15　レクリェーション一協会公認指導者：施設にてレクリェーションコーディネーターとして勤務

16　ダンスインストラクター：ダンススタジオにてダンスインストラクターとして勤務

17　教務職員：大学にて教務職員として勤務

18　介護支援専門員：病院・診療所・地域包括支援センターにて介護支援専門員として勤務

［教　育　理　念］

看護専門職としての志を高く持ち、自ら学び、考え、行動する看護実践者の育成

［教　育　目　的］

人びとのいのち・くらし・尊厳を支える看護実践者を育成する。

［教　育　目　標］

1. 看護の対象である人びとを生活者としてとらえる力を涵養する。

2. 対象を中心とした看護を提供するためのコミュニケーション能力を涵養する。

3. 看護の対象をかけがえのない存在として尊重し、倫理観に基づいた看護を実践できる能力を涵養する。

4. 臨床判断に基づいた看護を実践する基礎的能力を身につける。

5. 地域包括ケアシステムにおいて、看護の専門性を発揮し、多職種と連携・協働する基礎的能力を身につける。

6. 社会と人びとのニーズの多様性や変化に関心を向けることができる。

教　育　課　程

（第２看護学科）

区分・内容		授業科目	単位(時間数)
基礎分野	科学的思考の基盤	論理学Ⅰ（文章表現）	1(15)
		論理学Ⅱ（論理的思考）	1(15)
		情報科学	1(30)
		小　計	3(60)
	人間と生活・社会の理解	心理学	1(30)
		社会学	1(30)
		教育学	1(15)
		保健体育	1(30)
		英語	1(30)
		小　計	5(135)
	合　計		8(195)
専門基礎分野	人体の構造と機能	栄養と代謝（生化学/栄養学）	1(30)
		臨床薬理学（薬理学/薬物療法看護）	1(30)
		微生物学	1(15)
		人体の構造と機能（解剖生理学/病態生理学）	2(45)
		病理学	1(15)
		小　計	6(135)
	疾病の成り立ちと回復の促進	疾病論Ⅰ（呼吸器/循環器）	1(30)
		疾病論Ⅱ（運動器/脳神経）	1(30)
		疾病論Ⅲ（消化器/内分泌・代謝/眼科/耳鼻科）	1(30)
		疾病論Ⅳ（血液・造血器/免疫/腎・泌尿器/口腔/皮膚科）	1(30)
		小　計	4(120)
	健康支援と社会保障制度	関係法規	1(15)
		公衆衛生学	1(15)
		社会福祉	1(30)
		生命倫理	1(30)
		小　計	4(90)
	合　計		14(345)
専門分野	基礎看護学	看護学概論	1(30)
		技術論Ⅰ（臨床判断の基礎）	1(30)
		技術論Ⅱ（看護過程）	1(30)
		技術論Ⅲ（日常生活援助技術）	1(30)
		技術論Ⅳ（臨床看護総論/学習支援）	1(30)
		技術論Ⅴ（診療の補助技術）	1(30)
		小　計	6(180)
	地域・在宅看護論	地域・在宅看護総論（看護の対象である人とくらしを理解する）	1(30)
		地域・在宅看護方法論Ⅰ（地域ケアマネジメントと多職種連携）	1(15)
		地域・在宅看護方法論Ⅱ（家族看護と在宅看護過程）	1(15)
		地域・在宅看護方法論Ⅲ（対象のくらしに応じた支援の実際）	1(30)
		地域・在宅看護方法論Ⅳ（健康とくらしを支える技術の基本）	1(30)
		小　計	5(120)

区分・内容		授業科目	単位(時間数)
専門分野	成人看護学	成人看護学概論	1(30)
		成人看護学方法論Ⅰ（呼吸器/循環器/腎・泌尿器）	1(30)
		成人看護学方法論Ⅱ（運動器/脳神経/血液・造血器）	1(30)
		成人看護学方法論Ⅲ（消化器/内分泌・代謝/乳腺/緩和ケア）	1(30)
		小　計	4(120)
	老年看護学	老年看護学概論	1(30)
		老年看護学方法論Ⅰ（高齢者看護の基本・実践Ⅰ）	1(30)
		老年看護学方法論Ⅱ（高齢者看護の基本・実践Ⅱ）	1(30)
		小　計	3(90)
	小児看護学	小児看護学概論	1(30)
		小児看護学方法論Ⅰ（障害と治療）	1(15)
		小児看護学方法論Ⅱ	1(30)
		小　計	3(75)
	母性看護学	母性看護学概論	1(30)
		母性看護学方法論Ⅰ（障害と治療/周産期・新生児）	1(15)
		母性看護学方法論Ⅱ（周産期・新生児の看護）	1(30)
		小　計	3(75)
	精神看護学	精神看護学概論	1(30)
		精神看護学方法論Ⅰ（障害と治療）	1(15)
		精神看護学方法論Ⅱ	1(30)
		小　計	3(75)
	看護の統合と実践	看護管理と医療安全	1(30)
		看護研究	1(30)
		災害看護と国際看護	1(15)
		臨床判断能力	1(30)
		小　計	4(105)
	臨地実習	基礎看護学実習	2(90)
		地域・在宅看護論実習	2(90)
		成人・老年看護学実習Ⅰ（治療を受ける対象の看護・予防的視点を持つ看護）	2(90)
		成人・老年看護学実習Ⅱ（多様な健康段階・生活の場における看護）	2(90)
		小児看護学実習	2(90)
		母性看護学実習	2(90)
		精神看護学実習	2(90)
		統合実習	2(90)
		小　計	16(720)
	合　計		47(1560)
講義合計			53(1380)
実習合計			16(720)
総合計			69(2100)

カリキュラム構造について

１）カリキュラム構造図の考え方

第2看護学科では「基礎分野」、「専門基礎分野」、「専門分野」の3つの科目群に編成し、それぞれを3年間で段階的に身に付けるように学修するカリキュラムを編成した。

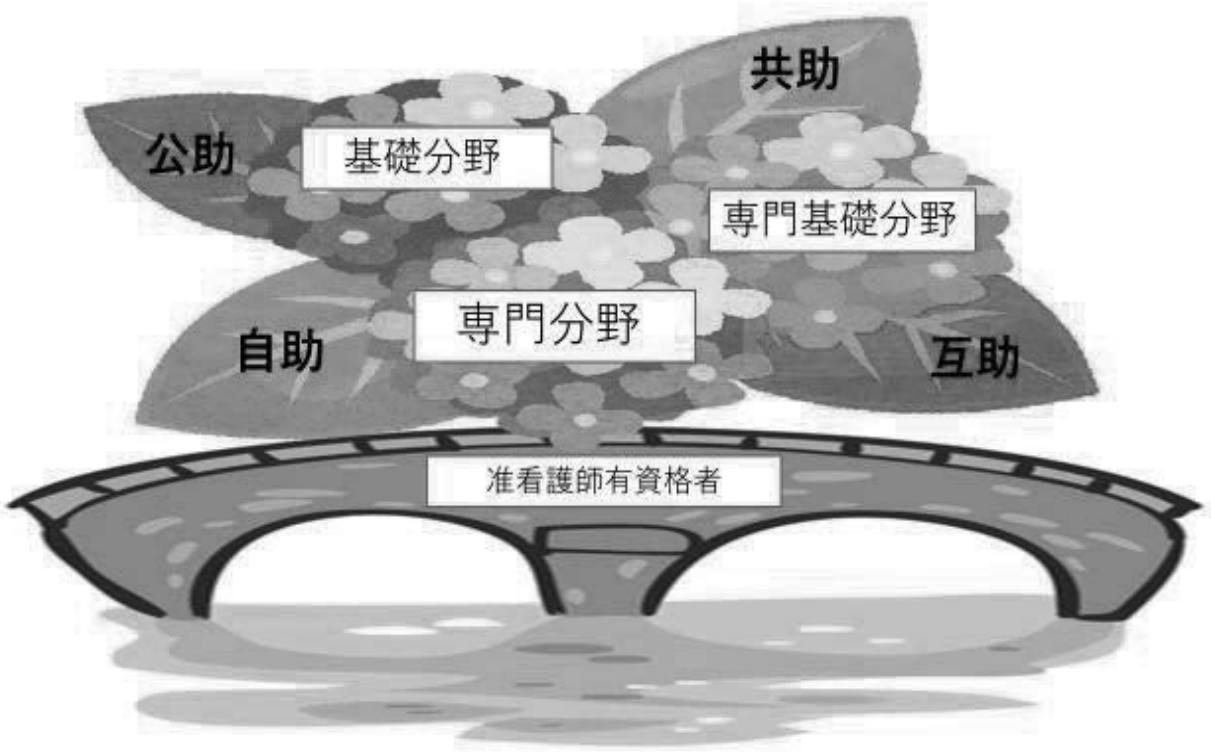
アジサイは長崎市を象徴する花である。アジサイは一度植え付ければ、長い間花を楽しめる寿命の長い植物で年々花数が増えて見事な株になる。看護実践者として主体的に学び看護者としても専門性を深めていくことをアジサイの花の特徴に例えた。

構造図は眼鏡橋にアジサイが咲いていることを示した。眼鏡橋もまた長崎市の象徴である。長崎は医学発祥の地であることから看護師を目指して学びを発展していってほしいことを構造図にした。

長崎市の象徴であるアジサイと眼鏡橋、そして地域包括ケアシステムの4つの「助」を葉っぱにした。これは、地域に貢献し、地域で暮らす人々の暮らしやすさにつながる実践者になることをめざしていることを示した。

本学科は准看護師の資格をもつ学生が看護師を目指す課程である。眼鏡橋を准看護師の土台とし、橋の上のアジサイは、看護実践者に必要となる3つの分野を学ぶことで知識や技術、態度を統合することを示した。

２）カリキュラム構造図



3）カリキュラムデザイン

	1年次（27単位）	2年次（24単位）	3年次（18単位）
専門分野	【基礎看護学】 看護学概論 技術論Ⅰ（臨床判断の基礎） 技術論Ⅲ（日常生活援助技術） 【地域・在宅看護論】 地域・在宅看護総論 （看護の対象のである人とくらしを理解する） 【成人看護学】 成人看護学概論 成人看護学方法論Ⅰ （呼吸器/循環器/腎・泌尿器） 成人看護学方法論Ⅱ （運動器/脳神経/血液・造血器） 成人看護学方法論Ⅲ （消化器/内分泌・代謝/乳腺/緩和ケア） 【老年看護学】 老年看護学概論 【母性看護学】 母性看護学方法論Ⅰ （障害と治療/周産期・新生児） 【精神看護学】 精神看護学概論 精神看護学方法論Ⅰ（障害と治療）	【基礎看護学】 技術論Ⅱ（看護過程） 技術論Ⅳ（臨床看護総論/学習支援） 技術論Ⅴ（診療の補助技術） 【地域・在宅看護論】 地域・在宅看護方法論Ⅰ （地域ケアマネジメントと多職種連携） 地域・在宅看護方法論Ⅱ （家族看護と在宅看護過程） 地域・在宅看護方法論Ⅲ （対象のくらしに応じた支援の実際） 地域・在宅看護方法論Ⅳ （健康とくらしを支える技術の基本） 【老年看護学】 老年看護学方法論Ⅰ （高齢者看護の基本・実践Ⅰ） 老年看護学方法論Ⅱ （高齢者看護の基本・実践Ⅱ） 【小児看護学】 小児看護学概論 小児看護学方法論Ⅰ（障害と治療） 小児看護学方法論Ⅱ 【母性看護学】 母性看護学概論 母性看護学方法論Ⅱ （周産期・新生児の看護） 【精神看護学】 精神看護学方法論Ⅱ 【看護の統合と実践】 災害看護と国際看護 【臨地実習】 基礎看護学実習	【看護の統合と実践】 看護管理と医療安全 看護研究 臨床判断能力 【臨地実習】 地域・在宅看護論実習 成人・老年看護学実習Ⅰ （治療を受ける対象の看護・予防的視点を持つ看護） 成人・老年看護学実習Ⅱ （多様な健康段階・生活の場における看護） 小児看護学実習 母性看護学実習 精神看護学実習 統合実習
専門基礎分野	【人体の構造と機能】 栄養と代謝（生化学/栄養学） 微生物学 人体の構造と機能 （解剖生理学/病態生理学） 病理学 【疾病の成り立ちと回復の促進】 疾病論Ⅰ（呼吸器/循環器） 疾病論Ⅱ（運動器/脳神経） 疾病論Ⅲ（消化器/内分泌・代謝/眼科/耳鼻科） 疾病論Ⅳ（血液・造血器/免疫/腎・泌尿器/口腔/皮膚科）	【人体の構造と機能】 臨床薬理学（薬理学/薬物療法看護） 【健康支援と社会保障制度】 公衆衛生学 社会福祉 生命倫理	【健康支援と社会保障制度】 関係法規
基礎分野	【科学的思考の基盤】 論理学Ⅰ（文章表現） 論理学Ⅱ（論理的思考） 【人間と生活・社会の理解】 心理学 社会学 教育学 英語	【科学的思考の基盤】 情報科学 【人間と生活・社会の理解】 保健体育	

教育課程進度表

教育内容		授業科目	単位	時間	1年次		2年次		3年次	
					前期	後期	前期	後期	前期	後期
基礎分野	科学的思考の基盤	論理学Ⅰ（文章表現）	1	15						
		論理学Ⅱ（論理的思考）	1	15						
		情報科学	1	30						
	人間と生活・社会の理解	心理学	1	30						
		社会学	1	30						
		教育学	1	15						
		保健体育	1	30						
		英語	1	30						
	合計		8	195	6	(135)	2	(60)		
専門基礎分野	人体の構造と機能	栄養と代謝（生化学/栄養学）	1	30						
		臨床薬理学（薬理学/薬物療法看護）	1	30						
		微生物学	1	15						
		人体の構造と機能（解剖生理学/病態生理学）	2	45						
		病理学	1	15						
	疾病の成り立ちと回復の促進	疾病論Ⅰ（呼吸器/循環器）	1	30						
		疾病論Ⅱ（運動器/脳神経）	1	30						
		疾病論Ⅲ（消化器/内分泌・代謝/眼科/耳鼻科）	1	30						
		疾病論Ⅳ（血液・造血器/免疫/腎・泌尿器/口腔/皮膚科）	1	30						
	健康支援と社会保障制度	関係法規	1	15						
		公衆衛生学	1	15						
		社会福祉	1	30						
		生命倫理	1	30						
	合計		14	345	9	(225)	4	(105)	1	(15)
専門分野	基礎看護学	看護学概論	1	30						
		技術論Ⅰ（臨床判断の基礎）	1	30						
		技術論Ⅱ（看護過程）	1	30						
		技術論Ⅲ（日常生活援助技術）	1	30						
		技術論Ⅳ（臨床看護総論/学習支援）	1	30						
		技術論Ⅴ（診療の補助技術）	1	30						
		小計	6	180	3	(90)	3	(90)		
	地域・在宅看護論	地域・在宅看護総論（看護の対象である人とくらしを理解する）	1	30						
		地域・在宅看護方法論Ⅰ（地域ケアマネジメントと多職種連携）	1	15						
		地域・在宅看護方法論Ⅱ（家族看護と在宅看護過程）	1	15						
		地域・在宅看護方法論Ⅲ（対象のくらしに応じた支援の実際）	1	30						
		地域・在宅看護方法論Ⅳ（健康とくらしを支える技術の基本）	1	30						
		小計	5	120	1	(30)	4	(90)		
	成人看護学	成人看護学概論	1	30						
		成人看護学方法論Ⅰ（呼吸器/循環器/腎・泌尿器）	1	30						
		成人看護学方法論Ⅱ（運動器/脳神経/血液・造血器）	1	30						
		成人看護学方法論Ⅲ（消化器/内分泌・代謝/乳腺/緩和ケア）	1	30						
		小計	4	120	4	(120)				
	老年看護学	老年看護学概論	1	30						
		老年看護学方法論Ⅰ（高齢者看護の基本・実践Ⅰ）	1	30						
		老年看護学方法論Ⅱ（高齢者看護の基本・実践Ⅱ）	1	30						
		小計	3	90	1	(30)	2	(60)		
	小児看護学	小児看護学概論	1	30						
		小児看護学方法論Ⅰ（障害と治療）	1	15						
		小児看護学方法論Ⅱ	1	30						
		小計	3	75			3	(75)		
	母性看護学	母性看護学概論	1	30						
		母性看護学方法論Ⅰ（障害と治療/周産期・新生児）	1	15						
		母性看護学方法論Ⅱ（周産期・新生児の看護）	1	30						
		小計	3	75	1	(15)	2	(60)		
	精神看護学	精神看護学概論	1	30						
		精神看護学方法論Ⅰ（障害と治療）	1	15						
		精神看護学方法論Ⅱ	1	30						
		小計	3	75	2	(45)	1	(30)		
	看護の統合と実践	看護管理と医療安全	1	30						
		看護研究	1	30						
		災害看護と国際看護	1	15						
		臨床判断能力	1	30						
		小計	4	105			1	(15)	3	(90)
	臨地実習	基礎看護学実習	2	90						
		地域・在宅看護論実習	2	90						
		成人・老年看護学実習Ⅰ（治療を受ける対象の看護・予防的視点を持つ看護）	2	90						
		成人・老年看護学実習Ⅱ（多様な健康段階・生活の場における看護）	2	90						
		小児看護学実習	2	90						
		母性看護学実習	2	90						
		精神看護学実習	2	90						
		統合実習	2	90						
		小計	16	720			2	(90)	14	(630)
	合計		47	1560	12	(330)	18	(510)	17	(720)
講義合計			53	1380	27	(690)	22	(585)	4	(105)
実習合計			16	720			2	(90)	14	(630)
総計			69	2100	27	(690)	24	(675)	18	(735)

各分野の考え方

【基礎分野】

基礎分野は、専門基礎分野および専門分野の基礎となる科目であり、看護実践に必要とされる論理的思考や対人関係、人間の生活について学ぶ。

看護を実践するということは専門的な知識や技術を思考し、他者に伝える情報伝達能力が必要となる。基礎科目では思考したものをコミュニケーションや文章として伝えるための科目を構成する。

そして、看護師は、健康障害のある人のみならず、対象の家族や健康な人も看護の対象として関わることが求められる。その際、相手の気持ちを知り、その気持ちに寄り添う看護者の感性が大切になる。看護者は成人学習者として、生涯学習を通し豊かな教養を身につけ、国際化・情報化社会に対応できる能力を身につける内容とした。

教育内容	科目	科目設定理由
科学的思考の基盤	論理学Ⅰ（文章表現） 論理学Ⅱ（論理的思考）	文章を構成する能力、思考を文章化できる能力を身につける。 論理的な思考過程を学ぶことで、起こっている現象を正しく解釈し、自分の考えを表現できる。
	情報科学	情報科学の急速な進歩に対応できるように、情報処理の基本的な考え方、統計データの整理の仕方・結果の読みとり方を実際にパソコンを使って理解する。また、他人に伝える技術を身につける。 情報通信技術（ICT）を活用するための基礎的能力を学ぶ。
人間と生活・社会の理解	心理学	看護の対象である人間の心と行動について学び、人間を理解するきっかけとする。 対象・家族、多職種とのよりよい関係を築くには、コミュニケーション能力を強化していくことが必要となってくる。人間関係の基本的ルールやカウンセリング技術の方法を学ぶ。
	社会学	人間の生活は、複雑な社会組織の中で営まれている。人間を取り巻く社会のしくみを理解し、人間関係や社会現象を様々な角度からみることで、人間を多角的にとらえられるようにする。また、社会現象が人間の生活にあたえる影響について学び、幅広いものの見方を養う。
	教育学	人間形成における教育の役割を理解するとともに看護実践者として生涯学習の必要性を理解する。
	保健体育	運動やスポーツの正しい知識や、リラクセーション・レクリエーションの実技を通して学生自身が身体運動の楽しさに触れ、生涯にわたって運動に親しむ態度を養う。さらに看護をより充実させるための基礎的資質として健康・疾病と運動の関係について理解し、個人・集団の健康づくりへのサポートができることを目的とする。
	英語	医療の現場で必要な英会話表現、医療専門用語の修得を目指す。さらに日常生活での基礎的な英会話能力を高めることで、異文化間コミュニケーション能力と国際化社会に対する広い視野を獲得することを目的とする。

【専門基礎分野】

看護学の観点から人体の構造と機能を系統立てて理解し、人間の健康状態と疾病の成り立ち、回復の促進に関する観察力・判断力を養い、科学的根拠に基づいた看護実践の基盤として学ぶ内容とする。そして看護師に必要な臨床判断能力の基盤となる力を養う内容を強化する。

保健・医療・福祉についての基本概念、関係制度、関係する職種の役割について学び、健康や障害の状態に応じた社会資源の活用ができる基礎的知識を身につける内容とする。

医療従事者にとって不可欠な医療倫理観を涵養し、看護に関連する倫理的課題への洞察を深める内容とする。

<table>
<tr><th>教育内容</th><th colspan="3">科　目</th><th>科目設定理由</th></tr>
<tr><td rowspan="5">人体の構造と機能</td><td colspan="3">栄養と代謝
（生化学/栄養学）</td><td>栄養の意義、生命を維持する働き、生命を活用する働きを学ぶ。看護では食事や栄養に関して支援する機会が多いため、対象者の健康維持・健康管理支援に必要な栄養管理を学ぶ。</td></tr>
<tr><td colspan="3">臨床薬理学
（薬理学/薬物療法看護）</td><td>安全な看護を提供するため薬物の特質、人体への影響、薬物の管理について学ぶ。対象者の健康管理を促進する看護を考える。</td></tr>
<tr><td colspan="3">微生物学</td><td>微生物の特徴と人体に及ぼす影響を学びその対応について学ぶ。</td></tr>
<tr><td colspan="3">人体の構造と機能
（解剖生理学/病態生理学）</td><td>人体で営まれているさまざまな、生命を維持する働き、生命を活用する働き、生命を保護し種を保存する働きを学ぶ。
健康障害のある対象を理解する為に、病気の原因・病理的変化の特徴から正常な形態・機能・代謝の変化を学ぶ。</td></tr>
<tr><td colspan="3">病理学</td><td>病気の原因、患者の徴候や症状をもたらす発生機序を学ぶ。</td></tr>
<tr><td rowspan="4">疾病の成り立ちと回復の促進</td><td rowspan="4">疾病論</td><td>Ⅰ</td><td>呼吸器/循環器</td><td rowspan="4">解剖生理学、病態生理学、病理学を基盤に系統別疾患の診断、検査、治療について理解を深める。看護における臨床判断の基盤となる科学的根拠を学ぶ。</td></tr>
<tr><td>Ⅱ</td><td>運動器/脳神経</td></tr>
<tr><td>Ⅲ</td><td>消化器/内分泌・代謝/眼科/耳鼻科</td></tr>
<tr><td>Ⅳ</td><td>血液・造血器/免疫/腎・泌尿器/口腔/皮膚科</td></tr>
<tr><td rowspan="4">健康支援と社会保障制度</td><td colspan="3">関係法規</td><td>法の基礎知識ならびに保健医療・福祉・薬事など看護に関連する諸法規を学び、看護業務に携わる者の業務と責任を自覚する必要性を理解する。
生活者が健康を維持する為の保健福祉医療制度について理解を深める。</td></tr>
<tr><td colspan="3">公衆衛生学</td><td>健康と生活環境を関連づけて理解し、健康の維持・増進・疾病の予防のため地域保健活動について学ぶ。</td></tr>
<tr><td colspan="3">社会福祉</td><td>国民の生活を保障するための社会福祉政策について理解し社会資源活用のための基礎とする。
社会福祉と医療・社会保障の関連について理解し、対象に必要な社会資源活用のための基礎とする。</td></tr>
<tr><td colspan="3">生命倫理</td><td>変動する社会情勢に伴い、複雑化多様化する倫理的課題を学び、看護場面における倫理的判断の基盤とする。</td></tr>
</table>

【専門分野】

基礎看護学は、看護の基盤となる基礎的理論や基礎的技術、看護の展開方法を学習し、看護師としての臨床判断能力を養う内容とする。

地域・在宅看護論では、地域で生活しながら療養する人々とその家族を理解し、様々な生活の場における看護の基礎を学ぶ内容とする。地域における多職種協働や終末期看護の内容を含むものとする。

成人看護学、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学の各看護学では、看護の対象の理解、疾病の予防、健康の回復・保持増進及び疾病・障害を有する人々に対する看護の方法を学び、看護実践能力の向上を図る内容とする。

看護の統合と実践は、看護基礎教育の集大成に位置し、対象に応じて既習の知識・技術・態度を統合し実践する内容とする。国際社会・災害場面など、多様かつ拡大する社会のニーズや看護の場において、多職種と連携・協働し、基礎的臨床判断能力を養う内容とする。

臨地実習では、学内で学習した知識・技術・態度を看護実践の場面に活用させることで看護理論と実践を関連づけ、臨床実践能力の向上を図ることが重要である。保健医療福祉との連携・協働を通して看護実践できる基礎的能力を養う内容とする。

教育内容	科　目	科目設定理由
基礎看護学	看護学概論	学問としての看護学への導入部であり看護を体系的に理解する基盤となる。看護の概念、看護の対象となる人間（個人・家族・集団・地域）の理解、看護学発展の歴史的変遷、看護の役割と機能、看護倫理や法律など、看護学の基本的基盤を学ぶ中で看護に対する考え方を育む。また、看護実践を裏付ける看護理論の概要と実践にいかす意義を学ぶ。
	技術論Ⅰ （臨床判断の基礎）	臨床実践の場で状況の変化に応じた看護実践を遂行するための臨床判断の基礎的知識を学ぶ。既習学習をもとに臨床判断の気づく力を養う。既習知識（解剖生理学、病理学、病態生理学、基礎看護技術など）を活用し、観察とコミュニケーションを用いて、情報から患者の変化に気づくことができる基礎的能力を身につける。これらの過程を通して、看護は思い付きではなく、知識が必要であり、全ての科目が看護につながるという認識を持つことを目指す。また、臨床において対象となる人の状態を総合的に査定するヘルスアセスメントについて理解する。
	技術論Ⅱ （看護過程）	看護の対象はさまざまであり、その人らしく生活できるよう支援していく。看護を系統的かつ科学的なプロセスにもとづき実践するための方法論の 1 つとして看護過程を学ぶ内容を技術論Ⅱとした。看護は対象となる人のニーズに応じたものであるため、対象者にとって必要な援助を見極め、提供するための手段・方法論を学習する。各看護学の学びを活用し展開していく。
	技術論Ⅲ （日常生活援助技術）	看護技術の教授は原理・原則を踏まえ、科学的根拠を明確にし、如何に工夫・応用して対象の個別性を考慮した援助を実施できるようにするかが重要となる。そこで、看護技術の中で対象に応じた基本的なニーズを充足するための日常生活援助技術を修得する。
	技術論Ⅳ （臨床看護総論/学習支援）	臨床看護総論と学習支援を合わせた科目を技術論Ⅳとした。健康障害をもつ対象の症状、経過、治療・処置の具体的内容と看護の役割および必要な技術を修得する。また、看護における学習支援について学ぶ。
	技術論Ⅴ （診療の補助技術）	健康障害をもつ対象に必要な治療・検査・処置の具体的内容と看護の役割および必要な技術を修得する。

地域・在宅看護論	地域・在宅看護論概論 （看護の対象である人とくらしを理解する）	地域・在宅における看護を学ぶにあたり、地域医療や看護が必要とされる背景と在宅看護の概念を学習する。さらに看護の対象を生活者として捉えて支援するために、家族を含む看護の対象のくらしや特徴を学習する。また訪問看護を中心に、地域で活動する看護職の役割について理解する。
	地域・在宅看護方法論Ⅰ （地域ケアマネジメントと多職種連携）	地域で生活・療養する人とその家族を支える保健医療福祉制度と、地域包括ケアシステムにおける看護職及び多職種の役割を学習する。また地域・在宅看護におけるケアマネジメントの重要性を理解する。
	地域・在宅看護方法論Ⅱ （家族看護と在宅看護過程）	地域でくらしながら療養する人の支援において、同居や別居を問わず家族の存在は重要である。現在の家族の特徴を理解し、介護によりもたらされるものを理解することは、医療や看護を必要とする人のくらしを支えるために重要である。また ICF モデルでみた看護のプロセスを理解する。
	地域・在宅看護方法論Ⅲ （対象のくらしに応じた支援の実際）	地域・在宅看護は、全年齢層及び様々な疾患や健康の段階にある人と家族を対象としている。さまざまな療養者のくらしに合わせた支援・医療的ケアの特徴と実際を理解する。
	地域・在宅看護方法論Ⅳ （健康とくらしを支える技術の基本）	地域・在宅看護における看護技術の特徴と、看護の対象のくらしを支えるために必要な基本的な生活支援技術を理解する。
成人看護学	成人看護学概論	成人各期の身体的・心理的・社会的特徴ならびに成人の生活や取り巻く環境を理解する。成人各期における健康の保持・増進や疾病の予防に向けた看護を理解する。
	成人看護学方法論Ⅰ （呼吸器/循環器/腎・泌尿器）	健康障害のある成人各期の人々の特徴を理解し、看護を展開するための基本的知識を得る。 終末期を含めたあらゆる健康段階にある患者およびその家族への看護に必要な臨床判断を行うための基礎的能力を養う。
	成人看護学方法論Ⅱ （運動器/脳神経/血液・造血器）	
	成人看護学方法論Ⅲ （消化器/内分泌・代謝/乳腺/緩和ケア）	
老年看護学	老年看護学概論	老年期にある対象の身体的・精神的・社会的特徴を学び、看護の対象を理解する。また、高齢者を取り巻く生活や社会資源、地域包括ケアに関する看護を学ぶ。 高齢者の人権や倫理について学び、QOL の向上ができる看護を目指す。
	老年看護学方法論Ⅰ （高齢者看護の基本・実践Ⅰ）	高齢者の看護を行ううえで必要となるフィジカルアセスメントや認知症を含む　ヘルスプロモーションを学ぶ。そして、高齢者が生じやすい主症状について理解し、生活の質の向上をめざした老年看護の基本的方法について学ぶ。
	老年看護学方法論Ⅱ （高齢者看護の基本・実践Ⅱ）	事例を用いて看護過程について学び、高齢者の看護について学ぶ。そして、高齢者の終末期について人生の終末という視点で看護者の役割について理解する。

小児看護学	小児看護学概論	小児看護の対象であるすべての子どもを理解するためには、成長・発達の特徴を理解する必要がある。子どもと家族を取り巻く環境や諸統計を知り、保健政策の動向について理解できる内容とする。 子ども観や小児看護の変遷を理解し、小児看護の役割について学ぶ。「子どもの最善の利益」について考える機会とする。
	小児看護学方法論Ⅰ （障害と治療）	小児期の主な疾患の病態・症状・診断・治療について学び、成長発達に応じた看護の理解につなげる。
	小児看護学方法論Ⅱ	小児期の健康障害は子どもと家族に影響を及ぼすため、子どもの反応や家族の反応について理解する。子どもの健康障害の経過や症状に応じた看護、各発達段階の特性や健康段階に応じた看護が理解できる内容とする。子どものアセスメントに必要な知識と技術について理解し、健康障害のある子どもと家族への看護過程の展開について理解する。
母性看護学	母性看護学概論	女性の生涯を通して性と生殖に焦点をあて、健康の保持・増進、疾病予防を理解し、母性機能が健全に発揮できるための理解を深める。さらにリプロダクティブヘルス/ライツの概念についての理解も深める。 母性観・父性観を成長させ、看護にいかせるよう働きかける。
	母性看護学方法論Ⅰ （障害と治療/周産期・新生児）	女性の生涯のうちに発症しやすい健康障害に焦点をあて、病態や症状、その診断方法と治療法について理解する。また、正常な妊娠・分娩・産褥の経過および新生児の生理機能について理解する。
	母性看護学方法論Ⅱ （周産期・新生児の看護）	生理的な経過をたどる妊婦・産婦・褥婦・新生児、並びにハイリスクの妊婦・産婦・褥婦・新生児への看護について理解する。そして、妊婦・産婦・褥婦、新生児とその家族に必要な看護技術を習得する。
精神看護学	精神看護学概論	精神看護学の対象は、ライフサイクルのすべての段階にある人間であり、すべての看護学の根幹となる。本科目では、人間の心の発達から精神的健康の維持・増進、危機への対応、さらには精神を障害された個人および家族の援助、生活指導、リハビリテーション、その後のフォローまでを包括する広範なものである。看護の対象を理解するためにも、精神保健医療の変遷と現状社会の課題や精神保健活動および精神保健福祉について学ぶ。
	精神看護学方法論Ⅰ（障害と治療）	精神疾患の病態生理や症状、診断方法について理解する。また、精神疾患の検査や治療方法について学ぶ。
	精神看護学方法論Ⅱ	精神看護に必要な判断と、各症状に関する知識および看護の基本的援助について理解する。社会復帰を目指す精神障害者への看護についても学ばせる。また、プロセスレコードについて演習を行い、学生の自己洞察を深める技術についても学ぶ。

看護の統合と実践	看護管理と医療安全	チーム医療における看護師としての調整とリーダーシップ、およびマネジメント能力を養うために看護管理について理解を深める必要がある。また、看護サービスのマネジメントの中で、リスクマネジメントは重要な内容のひとつである。疾病構造の複雑化、医療機器の進歩による技術の複雑・繁雑化のなか、医療事故の増加が見られる。そして、患者権利の主張により訴訟問題も増加傾向にある。医療が人の手によって支えられているかぎり、事故やエラーはおこりうる。それを前提にし、医療現場におけるエラーを防ぐためにはどうすべきか、看護業務と医療事故の構造を理解した上で、事故防止の考え方や知識を学ぶために医療安全に関する学習は不可欠であると考え、「看護管理と医療安全」という科目を設定した。
	看護研究	看護は専門職であり、看護学やその周辺領域の最新の研究成果に目を通し、その知見を批判的に咀嚼した上で日々の看護活動において気づいたことを地道に掘り下げ、よりよい看護実践につなげていくことも看護職の役割のひとつである。そこで、学習者が研究の必要性を理解し、将来さらに探求し未知の分野の研究や改善方法を考案する糸口にしたいと考えその内容を「看護研究」とした。
	災害看護と国際看護	日本という枠組みを超えた国際社会を視野に入れ、看護専門職としてグローバルな視点をもった個人を育てる内容として、「災害看護と国際看護」を設定した。近年、自然災害や人的災害など、災害がもたらす人々の健康障害、社会的問題が増加傾向にあるためそれらについて学び、看護の役割を理解する能力が求められている。被災地という特殊な状況下で行われる緊急医療、復興期援助、感染症対策、避難施設の保健対策、精神的ケア、災害病弱対策などの実例を広範囲に取り上げ、災害時における保健活動の概要を理解すると共に、被災者に必要とされる医療・看護を適応するための基礎的知識を習得する。災害時には救急看護も重要になるため、救急看護の内容も含める。
	臨床判断能力	学生の看護実践能力の強化が重要視されている。臨床判断能力は臨床的思考のひとつであり、対象者の反応からその場で考え出して行う判断である。そこで、学生自身が少しでも自信をもって卒業、スムーズに臨床に入れるように設定した。既習の知識・技術・態度を基に実践に即した基本技術を展開し、総合的評価を行うことによって技術の習得状況を確認する機会とする。

主要概念の定義

1）人間

・人間は、身体的・精神的・社会的側面を持つ統合体である

・人間は個としての存在であり、さまざまなニーズを満たしながら行動している

・人間は胎生期から老年期までのいずれかの発達段階にあり、成長・発達し続ける存在である

・人間は固有の価値観を持ち自らの責任において意志決定し、自己実現へ向かう存在である

・人間は各々の生活史をもつ唯一無二の存在で基本的権利を有する

・人間は自然・社会・文化的環境との相互作用により、絶えず変化している

2）健康

・健康状態には最良の健康から死に至るまで連続的なレベルがあり絶えず流動的である

・最良の健康状態とは、その人の身体的・精神的・社会的機能が発揮され、自己実現を目指し、環境に適応している状態である

・健康状態は個体要因と自然・社会・文化的環境との相互作用において成り立つ

・健康は人間の基本的権利であって、個人特有なものであり、人それぞれが自ら創るものである

3）看護

・看護の対象は、あらゆる健康の段階にある個人・家族・集団であり、成長・発達段階にあるすべての人々である

・看護は、その人に備わっている力を最大限に引き出し、最良の健康な状態になるように支援し、最期まで生を全うできるようにすることである

・看護は、対象者と看護者との人間関係を基盤として行う

・看護は、対象の健康に関する問題を解決するために系統的に働きかける

・看護は、対象者の日常生活を支援するための科学的な根拠に基づいた実践である

・看護は、専門職としての独自の機能を有し、保健医療福祉チームの中で調整の役割を担う

4）環境

・環境は、内部環境（個体）と外部環境（自然・社会・文化的環境）があり、人間とその生活を取り巻くすべてである

・環境は、人間の健康に影響を及ぼし、人間も環境を変化させる存在である

5）学習

・学習は、自己実現を目指した主体的な活動であり、生涯にわたるものである

・学習は、知識や技術・態度を獲得しようとする行動とその過程である

・学習者の経験は、貴重な学習資源であり、知識の応用や行動の統合を可能にする

6）教育

・教育は、教育者と学習者が互いに学び合い、成長していく過程である

・教育は、学習者の潜在能力を引き出し、育む行為である

・教育者は、学習者が主体的に学び続けることができるように支援していく

・教育者は、自己研鑽に努め、学習者へ看護に対する情熱を伝えていく

7）いのち

・生物の生きていく原動力、生命力

・すべての人びとに最も大事で、尊重されるもの

・個別性があり、人生において思いや願いを支える存在、価値観

8）くらし

・意思や考えを反映している

・暮らす場所は地域、社会

・文化、ライフスタイル、信念、信条に影響を受け、個人によって異なる

9）尊厳

・自分に主導権があることや自分の価値を実感でき、すべての人に死後も含めていつでも等しく適用されるもの

１年次履修科目

基礎分野

専門基礎分野

専門分野

分　野	基　礎　分　野	科目名	論　理　学　Ⅰ （文章表現）
開講時期	1年次（前期・後期）	単　位	1単位：15時間
担　当 講師名	末岡　洋	実務経験	―

テキスト・参考書・使用教材等

論理力ワークノートネクスト　難波博孝
：第一学習社
論理的思考とは何か　渡邊雅子
：岩波書店
バカロニア幸福論　坂本尚志：星海社

学習目標

1．論理的思考と文章表現の基礎を学び、語彙力を養成する
2．小論文の基本を習得する

評価方法・配点

筆記試験：80%
課題提出：20%

回	授　業　計　画	備考（課題）
1	第1講　論理的思考について 1．論理学(logic) (1)演繹的思考　(2)三段論法　(3)帰納法的思考　(4)推論(演繹・帰納・アブダクション) (5)パースのアブダクション　(6)弁証法的思考	課題1 投稿欄の「オピニオン」を原稿用紙に筆写する
2	第2講　論理と構想メモ(平面図)について 1．課題1「原稿用紙の書き方」の注意点 2．エッセイ(米)・ディセルタシオン(仏)・エンシャー(イラン)・小論文等(日本) 3．新聞の社説と読み方　　4．文章の構想メモ(平面図) 5．『論理力ワークノート ネクスト』　1：基礎 問題意識 P6	課題2 投稿欄の「オピニオン」について ①「見出し」を15字以内で記す ②「本文の要約」を50字以内で記す
3	第3講　文章表現と文章構成について 1．課題2「投書(オピニオン)の①見出し②要約」と新聞記事 2．意見文のアウトライン『伝える伝わる文章表現』より 3．投書について(見出し.要約)　　4．文章要約の留意点 5．中心的主張『増補版　大人のための国語ゼミ』より 6．問いの発見　　7．小論文の構想メモ(平面図)の例 8．構想メモ(平面図)から構想案(立体図)へ 9．医療に関する文章の構想案(立体図)について 10．文章の構想案(立体図)の考察〈社説を分析〉 11．『論理力ワークノート ネクスト』　2：基礎 具体・抽象①　語句と語句・文と文との関係 P8	課題3 「対義語」・「カタカナ語」・「欧文用語」を演習する
4	第4講　論理と構想案(立体図)について 1．課題3「語彙」について 2．小論文の2つの型　〈(1)テーマ型小論文　(2)課題文型小論文〉 3．小論文の構想案(立体図)の例　　4．課題文型小論文に向けて〈社説を分析〉 5．『論理力ワークノート ネクスト』　3：基礎 具体・抽象② 段落間の関係 P10	課題4 「医療に関する小論文の構想メモ(平面図)」を作成する
5	第5講　医療に関する小論文の基礎Ⅰ 1．課題4「医療に関する小論文の構想メモ(平面図)」について 2．テーマと意見について　　3．考察と根拠について 4．課題文型小論文『小論文　書き方と考え方』より 5．小論文作成上の留意点　　6．医療に関する800字小論文の例 7．『論理力ワークノート ネクスト』　4：基礎 対比・類比 P12	課題5 「医療に関する小論文の構想案(立体図)」を作成する
6	第6講　医療に関する小論文の基礎Ⅱ 1．課題5「医療に関する小論文の構想案(立体図)」について (1)医療に関する小論文構成上の注意点　(2)主なテーマと意見　(3)主な考察と根拠 2．ある学生の医療に関する小論文の構想メモ(平面図)と構想案(立体図) 3．『論理力ワークノート ネクスト』　5：基礎　原因・結果　P14 6：基礎 主張・理由・具体例① 関係を読み取る P16	課題6 「医療に関する小論文」を800字で作成する
7	第7講　小論文について 1．『論理力ワークノート ネクスト』　7：基礎 主張・理由・具体例② 隠れた関係を読み取る P18 2．演繹(deduction)、帰納(induction) そしてアブダプション(abduction)(retroduction)(仮定的推論)について (1)『ことばの教育を問い直す　国語・英語の現在・未来』より (2)『追いついた近代・消えた近代　戦後日本の自己像と教育』より (3)『言語の本質　ことばはどう生まれ、進化したか』より (4)『新装版　アブダプション　仮説と発見の論理』より 3．『論理力ワークノート ネクスト』　8：基礎 演繹・帰納・アブダクション P20 4．小論文の相互批評　　5．小論文のグループ討論 6．課題6「医療に関する小論文」の講評	

分　野	基　礎　分　野	科目名	論　理　学　Ⅱ （論理的思考）
開講時期	1年次（前期）	単　位	1単位：15時間
担　当 講師名	篠原　駿一郎	実務経験	―

テキスト・参考書・使用教材等
さまざまな印刷教材を配付

学習目標	評価方法・配点
言葉には優しさや美しさが必要だが、それとともに論理的正確さが必要である 本授業では医療に関わるさまざまなエッセイ、評論、法令などを読み、論点を読み取る、あるいは要約する力をつける これらをとおして、論理的思考力を培う	授業参加の熱意 筆記試験 100点

回	授　業　計　画	備　考
1	論理とはなにか、論理と倫理について考える	配布資料
2～6	エッセイ、評論、法令などを読み、内容を理解し、要約を練習する	配布資料
7	まとめと終講試験	

分　野	基　礎　分　野	科目名	心　理　学	
開講時期	1年次（前期・後期）	単　位	1単位：30時間	テキスト・参考書・使用教材等
担　当 講師名	峯　晃子 楠本　優子 応戸　絵奈	実務経験	13 14 14	配付資料

学習目標	評価方法・配点
1. 心理学の基礎的な理論、考え方についての知識を深める 2. 人間の発達過程を概観する 3. 心理学の基礎を学び、人の心理や行動、心の健康について考える	筆記試験　100点 心理学の基礎　　:30点 発達心理　　:35点 社会心理　臨床心理:35点

回	授　業　計　画	備　考
心理学の基礎		
1	オリエンテーション・心理学の歴史について	1～5峯先生
2	感覚・知覚	
3	記憶	
4	学習・条件付けについて	
5	情動・動機付け	
発達心理		
6	発達心理　①乳幼児の心理	6～10楠本先生
7	発達心理　②児童期～青年期の心理	
8	発達心理　③成人期～老年期の心理	
9	パーソナリティ	
10	職場環境、対人援助職の心の健康	
社会心理　臨床心理		
11	社会心理　①自己と他者（演習を含む）	11～15応戸先生
12	社会心理　②集団と個人	
13	社会心理　③コミュニケーション（演習を含む）	
14	臨床心理　①ストレス・メンタルヘルス	
15	臨床心理　②カウンセリング・心理療法	

分　野	基　礎　分　野	科目名	社　会　学
開講時期	1年次（後期）	単　位	1単位：30時間
担　当 講師名	平野　裕子	実務経験	―

テキスト・参考書・使用教材等

配布資料

学習目標

1. 人間の社会構造や社会的な人間行動、さらに家族の機能・構造を理解する
2. 自分の住む社会を理解するとともに世界に多様な文化、価値観があることを理解する

評価方法・配点

出席点　　：10点
筆記試験：60点
レポート　：30点

回	授　業　計　画			備　考
	単元	概要	キーワード	
1	人間と社会（1）	社会とはなにか	社会・社会集団・社会規範	
2	人間と社会（2）	社会化：看護学生の社会化	社会化・社会的役割の獲得	
3	家族（1）	家族の類型	核家族・拡大家族	
4	家族（2）	家族の発達課題	家族のライフサイクル	
5	地域社会（1）	地域社会と住民の健康	ソーシャル・キャピタル	
6	地域社会（2）	健康の社会的決定要因	地域社会・健康格差	
7	職業集団（1）	医療者・患者関係とその変化	医師・患者関係	
8	職業集団（2）	インフォームド・コンセントと患者の権利	インフォームド・コンセント	
9	健康と社会（1）	多様化する健康観	健康生成論・疾病生成論	
10	健康と社会（2）	健康観の転換	保健医療のパラダイムシフト	
11	現在社会と医療（1）	臓器移植をめぐる患者と医療者の認識（1）	臓器移植、脳死	
12	現在社会と医療（2）	臓器移植をめぐる患者と医療者の認識（2）	死生観、身体観	中間レポート
13	現在医療とグローバリゼーション（1）	医療人の国際移動	外国人看護師・介護士	
14	現在医療とグローバリゼーション（2）	看護は普遍的か？	看護の日・比・尼・超比較	
15	まとめ			＊終講試験 最終日の45分 使用して行う

分　野	基　礎　分　野	科目名	教　育　学	
開講時期	1年次（後期）	単　位	1単位：15時間	テキスト・参考書・使用教材等
担　当 講師名	榎　景子	実務経験	―	系統看護学講座　基礎　教育学 ：医学書院

学習目標	評価方法・配点
1．人間形成における教育の役割を理解するとともに看護実践者として生涯学習の必要性を理解する	筆記試験 100点

回	授　業　計　画	備　考
1	社会の中の教育と看護	
2	教育とは何か　「教育の概念」	
3	教育の対象　　「子ども観と発達」	
4	社会変動と教育	
5	キャリア教育（専門教育）	
6	生涯学習	
7	教育学　まとめ	

分　野	基　礎　分　野	科目名	英　　語	
開講時期	1年次（前期）	単　位	1単位：30時間	テキスト・参考書・使用教材等
担　当 講師名	上野　葉子	実務経験	―	ｸﾘｽﾃｨｰﾝのやさしい看護英会話 ：医学書院

学習目標	評価方法・配点
1. 医療の現場で必要な英会話表現、医療専門用語を修得する 2. 看護の場において英語によるｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝが可能になるような実践的な能力を身につける	筆記試験 100点

回	授　業　計　画		備　考
1～2	医療専門用語		
3	自己紹介の仕方	(Let me introduce myself .)	
4～5	患者さんへの体調の聞き方	(What is wrong with you?)	
6～7	場所や方向の説明の仕方	(Do you know how to get to the Pediatrics Clinic?)	
8～9	診察時に必要な言い方	(Please take off your under wear.)	
10～11	日常生活に関する質問の仕方	(Do you have any food alleergies?)	
12～13	患者さんの質問への答え方	(The operation is over.)	
14	退院後の生活指導の仕方	(Take care not to eatch a cold.)	
15	まとめ		

分　野	専門基礎分野	科目名	栄　養　と　代　謝 （生化学 /栄養学）
開講時期	1年次（前期・後期）	単　位	1単位：30時間 生化学10時間 栄養学20時間
担　当 講師名	生化学：馬場友巳 栄養学：本岡聖子 西村普賢	実務経験	1-1 9 1-1

テキスト・参考書・使用教材等

系統看護学講座　専門基礎分野
人体の構造と機能[2]生化学
：医学書院
系統看護学講座　別巻栄養食事療法
：医学書院

学習目標

生化学
1．生体をつくる物質とその機能およびエネルギー代謝を理解する

栄養学
1．人間にとっての栄養の意義を学び、病態に基づいた臨床栄養について理解する
2．臨床栄養における看護の役割を理解する

評価方法・配点

筆記試験
生化学：30点
栄養学：70点
（栄養士：50点　NST：20点）

回	授　業　計　画	備　考
生化学		教科書関連章
1	生化学を学ぶための基礎知識 生体を構成する主な原子や化学式を学ぶ。 細胞の構造と機能を学ぶ。	1章
2	代謝の基礎と酵素・補酵素 代謝を調節する酵素の作用機序を学ぶ。 酵素の作用を補助する補助因子とビタミンの働きを学ぶ。	2章
3	三大栄養素の構造と種類 グルコースなどの単糖類、スクロースなどの二糖類および多糖類の構造を学ぶ。 中性脂肪、リン脂質、コレステロールなどの構造を学ぶ。 タンパク質を構成するアミノ酸とその結合様式を学ぶ。	3章、5章、7章
4	エネルギー生成とアミノ酸の代謝 解糖系、クエン酸回路、電子伝達系とβ-酸化について学ぶ。 各種アミノ酸の代謝と代謝産物を学ぶ。	4章、6章、8章
5	遺伝情報とその発現 遺伝情報を担う核酸の構造や遺伝子発現の機序を学ぶ。 転写と翻訳の仕組みを学ぶ。	10章～13章
栄養学		
1	病院概要・栄養士業務概要 第1章　栄養食事療法とは　　第3章　症状をもつ患者の栄養食事療法 第2章　栄養食事療法の実際	
2	第4章　呼吸器疾患患者の栄養食事療法 第5章　循環器疾患患者の栄養食事療法	
3	第6章　消化器疾患患者の栄養食事療法	
4	第7章　腎・泌尿器疾患患者の栄養食事療法	
5	第8章　栄養代謝性疾患患者の栄養食事療法　第10章　アレルギー疾患患者の栄養食事療法 第9章　血液疾患患者の栄養食事療法	
6	第11章　精神・神経疾患患者の栄養食事療法　第13章　術前・術後の栄養管理 第12章　熱傷・褥瘡の栄養食事療法　第14章　がん患者の栄養食事療法	
7	第15章　妊産婦・更年期女性の栄養管理　第17章　高齢者の栄養食事療法 第16章　小児の栄養食事療法　第18章　医療保険制度・介護保険制度と食事	
8	栄養サポートチーム活動	
9～10	栄養サポートチームにおける看護職の役割　事例検討	

分　野	専門基礎分野	科目名	微　生　物　学
開講時期	1年次（後期）	単　位	1単位：15時間
担　当 講師名	大沢　一貴	実務経験	―

テキスト・参考書・使用教材等

系統看護学講座　専門基礎分野
疾病の成り立ちと回復の促進[4]
微生物学：医学書院

学習目標

1. 微生物の特徴と人体に及ぼす影響について理解する
2. 病原体と病原体によって起こる疾患との関係を理解する

評価方法・配点

筆記試験
100点

回	授　業　計　画	備　考
1	人類と微生物の関係 微生物の種類と特徴	
2	微生物検査法のいろいろ 感度と特異性、抗原抗体反応、遺伝子診断法、PCR法他	
3	免疫のしくみ 生体の防御機構	
4	感染症の治療および対策	
5	ウイルス学総論	
6	ウイルス各論 ヘルペスウイルス、インフルエンザウイルス、肝炎ウイルス、HIV他	
7	その他の病原微生物　　プリオンなど	

分　野	専門基礎分野	科目名	人　体　の　構　造　と　機　能 （解剖生理学/病態生理学）	
開講時期	1年次（前期・後期）	単　位	2単位：45時間 解剖生理学20時間 病態生理学25時間	テキスト・参考書・使用教材等 系統看護学講座　専門基礎分野 人体の構造と機能[1]解剖生理学 疾病の成り立ちと回復の促進 [1]病理学 [2]病態生理学：医学書院
担　当 講師名	解剖生理学：川添薫 病態生理学：松本逸郎	実務経験	12 8	
学習目標				評価方法・配点
解剖生理学	1．人体の基本を理解し、人体解剖、解剖学、生理学、人間生理学の基礎を修得することを目的にする。また、超音波診断装置・模型による解説及び実習も一部含めて内容ごとに学習する			筆記試験 解剖生理学：50点 病態生理学：50点
病態生理学	1．病気の原因・病理的変化の特徴から、正常な形態・機能・代謝の変化を学ぶ 2．病気の原因、病理的変化の特徴から、健康障害のある患者理解の基とする			

回	授　業　計　画	備　考
解剖生理学		
1	解剖生理学概論	
2	循環器系	
3	呼吸器系	
4	消化器系	
5	内分泌系・免疫系	
6	泌尿器系　生殖器系	
7	骨格系と筋系	
8	神経系	
9	感覚器系	
10	演習問題と解説	
病態生理学		
1～2	体液の異常：水分代謝、脱水、溢水、浸透圧異常、ホルモン調節 電解質異常（Na+、K+、Ca2+、Cl−）、ホルモン調節 酸塩基平衡（HCO3−とCO2）、酸塩基平衡異常	
3	循環障害：閉塞と出血、血栓・塞栓、梗塞、再灌流障害	
4	呼吸障害：PaO2、PaCO2、閉塞性疾患、拘束性疾患、COPD	
5	炎症：炎症の5徴、Chemical　mediators、CRP、赤血球沈降速度	
6	発熱：外因性と内因性発熱、消炎鎮痛物質、サイトカイン	
7	感染：病原菌、グラム染色、感染経路と様式	
8	発症：発症までの経過と徴候、新型コロナパンデミック	
9～10	免疫：免疫細胞、自然免疫と獲得免疫 細胞性免疫、液性免疫	
11	免疫異常：アレルギー症、自己免疫疾患、アナフィラキシー	
12	代謝異常：糖質、脂質、蛋白質の異常代謝	

分　野	専門基礎分野	科目名	病　理　学
開講時期	1年次（前期・後期）	単　位	1単位：15時間
担　当 講師名	松田　勝也	実務経験	10

テキスト・参考書・使用教材等

系統看護学講座　専門基礎分野
疾病の成り立ちと回復の促進[1]
病理学：医学書院

学習目標

1．病気の原因、病気の発症・進展の過程、患者に対する影響などを理解する

評価方法・配点

筆記試験
100点

回	授　業　計　画		備　考
1	病因論	病気の概念、病気の原因、病気の分類	
2	炎症と免疫異常	炎症原因と種類、免疫、アレルギー、自己免疫疾患	
3	循環障害	局所性、全身性の循環障害、リンパの循環障害	
4	代謝障害	萎縮、変性、壊死と脂質、タンパク質、糖質など代謝異常	
5	先天異常と遺伝子異常	遺伝子異常、染色体異常、先天異常の診断	
6	老化と死	細胞の老化、加齢に伴う臓器の変化、脳死など	
7	腫瘍	腫瘍の発生原因、良性と悪性の区別、診断と治療	

分　野	専門基礎分野	科目名	疾　病　論　Ⅰ （呼吸器/循環器）
開講時期	1年次（前期）	単　位	1単位：30時間 呼吸器14時間 循環器16時間
担　当 講師名	呼吸器：高橋　淳 循環器：深江　学芸	実務経験	1−1 1−1

テキスト・参考書・使用教材等
系統看護学講座　専門分野 成人看護学[2]呼吸器 成人看護学[3]循環器 ：医学書院

学習目標	評価方法・配点
呼吸器　1．呼吸器疾患の病態生理、症状、検査、診断、治療を理解し、身体アセスメントできる基礎的知識を習得する 循環器　1．循環器疾患の病態生理、症状、検査、診断、治療を理解し、身体アセスメントできる基礎的知識を習得する	筆記試験 呼吸器：50点 循環器：50点

回	授　業　計　画		備　考
呼吸器			
1	呼吸器疾患の検査と治療・処置		
2	感染症	インフルエンザ　肺炎　肺結核	
3	間質性肺疾患	間質性肺炎　サルコイドーシス 好酸球性肺疾患　過敏性肺炎　塵肺	
4	気道の閉塞をきたす疾患	気管支喘息　慢性閉塞性肺疾患 睡眠時無呼吸症候群	
5	肺腫瘍		
6～7	肺循環障害 胸膜疾患その他	肺梗塞　肺塞栓症 気胸	
循環器			
1	循環器疾患の検査と治療・処置		
2～3	虚血性心疾患	狭心症　心筋梗塞	
4	心筋疾患と弁膜疾患	心筋症　弁膜症	
5	心不全		
6	血圧異常	動脈硬化症　高血圧　低血圧	
7	不整脈		
8	動脈系疾患と静脈系疾患	大動脈瘤　閉塞性動脈硬化症 下肢静脈瘤　深部静脈血栓症	

分　野	専門基礎分野	科目名	疾　病　論　Ⅱ （運動器/脳神経）
開講時期	1年次（前期・後期）	単　位	1単位：30時間 運動器10時間 脳神経外科12時間 脳神経内科8時間
担　当 講師名	運動器　　：朝永　正剛 脳神経外科：吉田　光一 氏福　健太 日宇　健 脳神経内科：平山　拓朗 大塚　寛朗 冨田　祐輝 鳥村　大司	実務経験	1−2 1−2 1−2 1−2 1−2 1−2 1−2 1−2

テキスト・参考書・使用教材等

系統看護学講座　専門分野
成人看護学[10]運動器
成人看護学[7]脳・神経
：医学書院

学習目標

運動器　1．運動器疾患の病態生理、症状、検査、診断、治療を理解し、身体アセスメントできる基礎的知識を習得する

脳神経　1．脳神経疾患の病態生理、症状、検査、診断、治療を理解し、身体アセスメントできる基礎的知識を習得する

評価方法・配点

筆記試験
運動器　：30点
脳神経　脳神経外科：40点
　　脳神経内科：30点

回	授　業　計　画	備　考
運動器		
1	運動器疾患の検査と治療・処置	
2	外傷性(外因性)疾患　骨折　脱臼　神経損傷　筋、腱損傷	
3	炎症性疾患　変形性関節症　関節リウマチ 骨粗鬆症 骨腫瘍	
4	筋・腱の疾患　神経の疾患　筋ジストロフィー　重症筋無力症 上肢の疾患	
5	脊椎の疾患　下肢の疾患　腰痛症	
脳神経		
脳神経外科		
1	脳腫瘍1	
2	脳腫瘍2	
3	血管障害1	
4	血管障害2	
5	外傷・水頭症1	
6	外傷・水頭症2	
脳神経内科		
1	脳神経の検査と治療・処置	
2	脊髄疾患　脊髄損傷 末梢神経障害　ギランバレー症候群　圧迫性神経障害	
3	脱髄、変性疾患　多発性硬化症　パーキンソン病 筋萎縮性側索硬化症 神経系の感染症	
4	中毒　てんかん　認知症	

分　野	専門基礎分野	科目名	疾　病　論　Ⅲ （消化器/内分泌・代謝/眼科/耳鼻科）	
開講時期	1年次（後期）	単　位	1単位：30時間 消化器18時間 内分泌4時間　代謝4時間 眼科2時間　耳鼻科2時間	テキスト・参考書・使用教材等
担　当 講師名	消化器：佐藤　彩香　1−2 中村　瞬　1−2 小川　伸一郎　1−2 黒滝　航希　1−2 亀浜　郁佳　1−2 内分泌：三谷　紗貴　1−2 代　謝：土山　秀之　1−2 眼　科：大野　あかね　1−2 耳鼻科：橋本　清　1−2	実務経験		系統看護学講座　専門分野 成人看護学[5]消化器 成人看護学[6]内分泌・代謝 成人看護学[13]眼科 成人看護学[14]耳鼻咽喉 ：医学書院

学習目標		評価方法・配点
消化器	1．消化器疾患の病態生理、症状、検査、診断、治療を理解し、身体アセスメントできる基礎的知識を習得する	筆記試験 消化器：60点 内分泌：15点 代謝　：15点 眼科、耳鼻科は原則2時間の出席を以て各5点
内分泌・代謝	1．内分泌・代謝疾患の病態生理、症状、検査、診断、治療を理解し、身体アセスメントできる基礎的知識を習得する	
眼科 耳鼻科	1．眼科、耳鼻科疾患の病態生理、症状、検査、診断、治療を理解し、身体アセスメントできる基礎的知識を習得する	

回	授　業　計　画		備　考
消化器			
1	消化器疾患の検査と治療・処置		
2〜3	食道・胃・十二指腸疾患	食道癌　胃癌　胃炎　胃・十二指腸潰瘍	
4〜5	腸・腹膜疾患	腸炎　腹膜炎　イレウス 結腸癌　直腸癌	
6〜7	肝臓疾患	肝炎　肝硬変　肝癌	
8	胆嚢・膵臓疾患	胆石症　胆嚢および膵臓の炎症と癌	
9	手術療法	甲状腺　乳腺	
内分泌・代謝			
内分泌			
1	内分泌疾患の検査	脳幹・下垂体系疾患	
2	甲状腺・副甲状腺・副腎皮質疾患 下垂体腫瘍　甲状腺癌		
代謝			
1	糖尿病		
2	メタボリックシンドローム	肥満症　脂質異常症　高尿酸血症　痛風	
眼科			
1	眼科疾患の検査、治療、代表的な眼科疾患		
耳鼻科			
1	耳鼻科疾患の検査、治療、代表的な耳鼻科疾患		

分　野	専門基礎分野	科目名	疾　病　論　Ⅳ （血液・造血器/免疫/腎・泌尿器/口腔/皮膚科）
開講時期	1年次（後期）	単　位	1単位：30時間 血液・造血器8時間 免疫8時間　腎・泌尿器10時間 口腔2時間　皮膚科2時間
担　当 講師名	血液・造血器：勝岡　真一 免　疫：友川　拓也 松下　雄太 腎・泌尿器：土山　彩華 山田　翔大 口　腔：久松　徳子 皮膚科：小川　文秀	実務経験	1−2 1−2 1−2 1−2 1−2 1−1 1−2

テキスト・参考書・使用教材等

系統看護学講座　専門分野
成人看護学[4]血液・造血器
成人看護学[11]ｱﾚﾙｷﾞｰ/膠原病/感染症
成人看護学[8]腎・泌尿器
成人看護学[15]歯・口腔
成人看護学[12]皮膚
：医学書院

学習目標

血液・造血器　1．血液・造血器疾患の病態生理、症状、検査、診断、治療を理解し、身体アセスメントできる基礎的知識を習得する
免疫　1．免疫系疾患の病態生理、症状、検査、診断、治療を理解し、身体アセスメントできる基礎的知識を習得する
腎・泌尿器　1．腎・泌尿器疾患の病態生理、症状、検査、診断、治療を理解し、身体アセスメントできる基礎的知識を習得する
口腔　皮膚科　1．口腔、皮膚科疾患の病態生理、症状、検査、診断、治療を理解し、身体アセスメントできる基礎的知識を習得する

評価方法・配点

筆記試験
血液・造血器：30点
免疫　：30点
腎・泌尿器　：30点
口腔、皮膚科は原則2時間の出席を以て各5点

回	授　業　計　画	備　考
血液・造血器		
1	血液・造血器疾患の検査と治療・処置	
2	貧血	
3	白血病	
4	出血性疾患 悪性リンパ腫　多発性骨髄腫	
免　疫		
1	免疫のしくみ・自己免疫疾患とその機序	
2	免疫系の検査と治療	
3	アレルギー性疾患　蕁麻疹　接触性皮膚炎　アナフィラキシーショック HIV感染症	
4	膠原病　全身性エリテマトーデス　関節リウマチ シェーグレン症候群	
腎・泌尿器		
1	腎・泌尿器疾患の構造と機能、検査、処置	
2	腎・尿路の感染症、通過・機能障害、損傷、結石症	
3	腎・尿路・性器の腫瘍	
4	先天異常、男性生殖器疾患、他	
5	腎不全、腎代替療法	
口　腔		
1	口腔疾患の検査、治療、代表的な口腔系疾患	
皮膚科		
1	皮膚科疾患の検査、治療、代表的な皮膚科疾患	

分　野	専門分野	科目名	看　護　学　概　論	
開講時期	1年次（前期・後期）	単　位	1単位：30時間	成績評価の方法 系統看護学講座　専門分野 基礎看護学〔1〕看護学概論 ：医学書院
担　当 講師名	伊東　美穂	実務経験	1-2	

学習目標

1. 看護の歴史的背景（概念と変遷）、看護の定義、職業、および学問としての位置づけを理解する
2. 人間に対する見方・考え方を学び、看護の対象である人間を総合的に理解する
3. 健康の概念を明らかにし、ヘルスケアシステムについて理解する
4. 看護における倫理の考え方、倫理的問題について理解する
5. 先人の看護理論について学び、自己の看護観及び看護に対する考え方を広めていくことができる

評価方法・配点

筆記試験
100点

回	授　業　計　画	備　考
1	看護とは	
2	看護の役割と機能①	
3	看護の役割と機能②	
4	看護の対象の理解	
5	健康のとらえ方	
6	職業としての看護	
7	看護職者の継続教育とキャリア開発	
8	看護における倫理①	
9	看護における倫理②	
10	看護における倫理③	
11	看護の提供のしくみ	
12	看護をめぐる制度と政策	
13	看護サービスの管理	
14	主要な看護理論家の看護概念	
15	まとめ	

分　野	専門分野	科目名	技　術　論　Ⅰ （臨床判断の基礎）
開講時期	1年次（前期・後期）	単　位	1単位：30時間
担　当 講師名	林田　淳子 峰　雪絵	実務経験	1-2 1-2

テキスト・参考書・使用教材等

系統看護学講座　専門分野
基礎看護学〔2〕 基礎看護技術Ⅰ
基礎看護学〔4〕 臨床看護総論 : 医学書院

学習目標

1. 臨床判断モデルの4つのフェーズ「気づく」「解釈する」「反応する」「省察する」について理解する
2. 臨床判断を行うための基礎的能力を養う
3. リフレクションを通して自らの思考を広げたり、深めることができる
4. 看護実践の基盤となる観察技術・ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄの基本的な知識・技術を習得する

評価方法・配点

出席状況
課題ﾚﾎﾟｰﾄ提出状況
※演習欠席は減点
筆記試験　100点

回	授　業　計　画	備　考
1	臨床判断とは	
2	臨床判断モデルの4つのフェーズ	
3	事例による学習	
4	気づくラウンド リフレクション	
5～6	臨床判断モデルを取り入れた事例演習	
7～14	看護におけるヘルスアセスメント 1. 系統別フィジカルアセスメント 呼吸器、循環器のフィジカルアセスメント 腹部のフィジカルアセスメント 感覚器、神経系のフィジカルアセスメント 筋、骨格系のフィジカルアセスメント 2. 社会・心理面のアセスメント	演習含む
15	まとめ	

分　野	専門分野	科目名	技　術　論　Ⅲ （日常生活援助技術）	
開講時期	1年次（前期・後期）	単　位	1単位：30時間	テキスト・参考書・使用教材等 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ ：医学書院 配付資料
担　当 講師名	平　よどみ	実務経験	1-2	

学習目標	評価方法・配点
1．あらゆる健康ﾚﾍﾞﾙの対象に、安全・安楽・自立・個別性を考慮し、 日常生活行動を充足するための援助技術を修得する	筆記試験 提出ﾚﾎﾟｰﾄ 小テスト 出席状況 総点100点

回	授　業　計　画	備　考
1	科目の位置づけと講義内容の確認 患者の事例提示（日常生活援助技術の修得に向けて）	
2	看護技術の基本動作の確認	
3	食事・排泄に関する看護技術 （アセスメント・看護技術）	
4・5	事例の患者への看護の適用① 援助計画の立案	
6～8	事例の患者への看護の適用② 基本動作の確認	
9～11	事例の患者への看護の適用③ 援助計画に基づいた看護の実践	
12	看護実践内容の発表	
13・14	総合演習	
15	技術論Ⅲのまとめ	

分　野	専門分野	科目名	地　域　・　在　宅　看　護　総　論 （看護の対象である人とくらしを理解する）
開講時期	1年次(後期)	単　位	1単位：30時間
担　当 講師名	林田　淳子	実務経験	1-2

テキスト・参考書・使用教材等

ナーシンググラフィカ
地域・在宅看護論①
地域療養を支えるケア：メディカ出版

学習目標

1. 看護の対象のくらしを理解する
2. 地域・在宅看護が必要とされる背景と在宅看護の概念を理解する
3. 地域・在宅看護を必要とする人とその家族の特徴を理解する
4. 地域・在宅看護の活動の場と特徴を理解する

評価方法・配点

課題ﾚﾎﾟｰﾄ
筆記試験
100点

回	授　業　計　画	備　考
1	在宅医療の現状、課題～「日本」と「長崎」を中心に	専任教員
2	地域でくらすということ、支えあって生きるということ～「自助」「互助」「共助」「公助」	
3	地域の人々のくらしを支える看護とは	
4	在宅看護の変遷～くらしの中の看護の変遷	
5	在宅看護の目的と特徴 ～背景、位置づけ、定義、目的・機能、施設内看護と在宅看護の違い	
6	在宅看護における権利保障	
7	対象の理解①(療養者)～年齢、疾患、障害、療養状態別（予防、初期～終末期）	
8	対象の理解②（家族）～家族介護者の特徴	
9・10・11	地域療養を支える制度とシステム① ～介護保険制度、医療保険制度、後期高齢者医療制度、障害者総合支援法、 難病法、医療的ケア児支援法、生活保護、その他	
12・13	地域療養を支える制度とシステム② ～訪問看護ステーションに関する規定、訪問看護記録、その他	
14	地域療養を支える制度とシステム③ ～訪問看護以外のサービス（介護給付サービス他）、社会資源の活用 地域療養を支える制度とシステム④ ～病院から在宅へ、退院調整と退院支援、継続看護	
15	まとめ	

分　野	専門分野	科目名	成　人　看　護　学　概　論
開講時期	1年次(前期・後期)	単　位	1単位:30時間
担　当 講師名	大村　康子	実務経験	1-2

テキスト・参考書・使用教材等

系統看護学講座専門分野
成人看護学[1]成人看護学総論
:医学書院
国民衛生の動向:厚生統計協会

学習目標

1. 成人期にある対象を身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解する
2. 成人保健の動向について理解する
3. 多様な健康問題に対する成人看護の機能と役割について理解する
4. 成人の健康保持・増進、疾病予防のための看護について理解する
5. 成人の看護に有用な理論を理解する

評価方法・配点

筆記試験
提出レポート
100点

回	授　業　計　画	備　考
1	1. 成人看護学の概念 1)成人看護学の対象 2)ライフサイクルにおける成人の位置づけ・特徴	
2～3	1. 成人各期の対象特性の理解 (青年期・壮年期・向老期) 1)成人の身体的・心理的・社会的特徴 2)成人の発達課題	
4～5	1. 成人の日常生活と健康 1)成人各期における生活の特徴 2)成人の日常生活と健康 3)地域で暮らす成人の日常生活と健康の実態	
6～7	1. 成人の健康に関する施策と生活習慣病 1)生活習慣病とは 2)生活習慣病の予防対策 3)代表的な健康施策	
8～9	1. わが国の人口動態と保健統計 1)日本の人口動態 2)成人の健康状態と保健統計	
10～11	1. 成人の労働と健康 1)労働の概念 2)労働の実態と社会状況 3)職業に関連する健康障害	
12	1. 成人の健康行動を促進する援助 1)成人教育学(アンドラゴジー) 2)行動変容を促進する看護アプローチ トランスセオレティカルモデル　　エンパワメントエデュケーション	
13～14	1. 成人看護学に有用な理論 1)ストレスコーピング理論 2)自己効力感 3)意思決定支援	
15	まとめ	

分　野	専門分野	科目名	成　人　看　護　学　方　法　論　Ⅰ （呼吸器/循環器/腎・泌尿器）	
開講時期	1年次（後期）	単　位	1単位：30時間 呼吸器10時間　循環器10時間 腎・泌尿器10時間	テキスト・参考書・使用教材等 系統看護学講座　専門分野 成人看護学[2]呼吸器 成人看護学[3]循環器 成人看護学[8]腎・泌尿器 ：医学書院
担　当 講師名	呼吸器　　：中田　祐輔 循環器　　：小松　まどか 腎・泌尿器：髙比良　静波	実務経験	1−1 1−2 1−2	

学習目標

1. 呼吸機能障害のある患者へ科学的根拠に基づいた看護の実践に必要な臨床判断を行うための基礎的能力を習得する
2. 循環機能障害のある患者へ科学的根拠に基づいた看護の実践に必要な臨床判断を行うための基礎的能力を習得する
3. 腎・泌尿器機能障害のある患者へ科学的根拠に基づいた看護の実践に必要な臨床判断を行うための基礎的能力を習得する

評価方法・配点

筆記試験：総点100点
呼吸器　　：35点
循環器　　：35点
腎・泌尿器：30点

回	授　業　計　画	備　考
	呼吸機能障害患者の看護	
1	呼吸機能障害のある患者の看護の特性　身体的・心理的・社会的特徴	
2	呼吸困難のある患者の看護	
3	治療を受ける患者への看護 （人工呼吸器、酸素療法、胸腔ドレナージ、吸入療法）	
4～5	病期や機能障害に応じた看護 （肺がん、肺炎、肺結核、慢性閉塞性肺疾患、気管支喘息、気胸）	
	循環機能障害患者の看護	
1	循環機能障害のある患者の看護の特性　身体的・心理的・社会的特徴	
2	検査・処置を受ける患者への看護 （心電図、血管造影、心臓カテーテル）	
3	治療を受ける患者への看護 （経皮的冠動脈形成術、冠動脈バイパス術、ペースメーカー、心臓リハビリテーション）	
4～5	病期や機能障害に応じた看護 （心不全、虚血性心疾患、弁膜症、不整脈、動脈系疾患、静脈系疾患）	
	腎・泌尿器機能障害患者の看護	
1	排泄機能障害のある患者の看護の特性　身体的・心理的・社会的特徴	
2～3	検査・処置を受ける患者への看護 治療を受ける患者への看護 （食事療法、血液透析、腹膜透析、腎移植）	
4～5	病期や機能障害に応じた看護 （急性腎不全、慢性腎不全、慢性腎臓病、腎移植術後）	

分　野	専門分野	科目名	成　人　看　護　学　方　法　論　Ⅱ （運動器/脳神経/血液・造血器）	
開講時期	1年次（後期）	単　位	1単位：30時間 運動器10時間　脳神経10時間 血液・造血器10時間	テキスト・参考書・使用教材等
担　当 講師名	運動器：太田　直樹 脳神経：山﨑　尚美 血液・造血器：荻原　優花	実務経験	1−2 1−2 1−2	系統看護学講座　専門分野 成人看護学[10]運動器 成人看護学[7]脳・神経 成人看護学[4]血液・造血器 ：医学書院

学習目標

1. 運動機能障害のある患者へ科学的根拠に基づいた看護の実践に必要な臨床判断を行うための基礎的能力を習得する
2. 脳神経機能障害のある患者へ科学的根拠に基づいた看護の実践に必要な臨床判断を行うための基礎的能力を習得する
3. 血液・造血器機能障害のある患者へ科学的根拠に基づいた看護の実践に必要な臨床判断を行うための基礎的能力を習得する

評価方法・配点

筆記試験：総点100点
運動器　　：35点
脳・神経　　：35点
血液・造血器：30点

回	授　業　計　画	備　考
	運動機能障害患者の看護	
1	運動機能障害のある患者の看護の特性　身体的・心理的・社会的特徴	
2	検査・処置を受ける患者への看護 （関節可動域検査、徒手筋力テスト、関節造影、脊髄造影）	
3	治療を受ける患者への看護 （ギプス固定、牽引法、手術療法、リハビリテーション）	
4～5	病期や機能障害に応じた看護 （骨折、変形性関節症、関節リウマチ、椎間板ヘルニア、四肢切断後）	
	脳神経機能障害患者の看護	
1	脳神経機能障害のある患者の看護の特性　身体的・心理的・社会的特徴	
2	検査・処置を受ける患者への看護 （脳波、腰椎穿刺、脳血管造影、画像検査）	
3	治療を受ける患者への看護 （手術療法、リハビリテーション）	
4～5	病期や機能障害に応じた看護 （脳血管障害、脳腫瘍、頭部外傷、脊髄損傷、神経難病）	
	血液・造血機能障害患者の看護	
1	血液・造血器機能障害のある患者の看護の特性　身体的・心理的・社会的特徴	
2	検査・処置を受ける患者への看護 （骨髄検査）	
3	治療を受ける患者への看護 （化学療法、免疫抑制療法、造血幹細胞移植）	
4～5	病期や機能障害に応じた看護 （白血病、貧血、骨髄腫、血小板減少症）	

分　野	専門分野	科目名	成　人　看　護　学　方　法　論　Ⅲ （消化器/内分泌・代謝/乳腺/緩和ケア）
開講時期	1年次（後期）	単　位	1単位：30時間 消化器14時間　内分泌・代謝4時間 乳腺2時間　緩和ケア10時間
担　当 講師名	消化器 ：潟手　栞 内分泌・代謝：大西洋世 内分泌・代謝：冨永玲子 乳腺 ：西田彩世 緩和ケア ：増田弓華子	実務経験	1−2 1−2 1−2 1−2 1−2

テキスト・参考書・使用教材等

系統看護学講座　専門分野
成人看護学[5]消化器
成人看護学[6]内分泌・代謝
成人看護学[11]アレルギー膠原病感染症
成人看護学[9]女性生殖器
系統看護学講座　別巻緩和ケア
：医学書院

学習目標

1. 消化・吸収機能障害のある患者へ科学的根拠に基づいた看護の実践に必要な臨床判断を行うための基礎的能力を習得する
2. 内分泌・代謝機能障害並びに乳腺疾患患者へ科学的根拠に基づいた看護の実践に必要な臨床判断を行うための基礎的能力を習得する
3. 緩和ケアを必要とする患者・家族へ科学的根拠に基づいた看護の実践に必要な臨床判断を行うための基礎的能力を習得する

評価方法・配点

筆記試験：総点100点
消化器　　：50点
内分泌・代謝：15点
乳腺　　：5点
緩和ケア　　：30点

回	授　業　計　画	備　考
	消化・吸収機能障害患者の看護	
1	消化・吸収機能障害のある患者の看護の特性　身体的・心理的・社会的特徴	
2	検査・処置を受ける患者への看護	
3	（消化管内視鏡検査、超音波内視鏡検査、内視鏡的逆行性胆管膵管造影 消化管造影検査、画像検査、肝生検、腹腔鏡）	
4	治療を受ける患者への看護 （手術療法、内視鏡的粘膜切除術、腹腔鏡下手術、人工肛門造設術）	
5〜7	病期や機能障害に応じた看護 （食道がん、胃がん、大腸がん、結腸がん、肝臓胆嚢膵臓疾患）	
	内分泌・代謝機能障害患者の看護	
1	糖尿病患者の看護　食事療法・運動療法・薬物療法・日常生活指導	
2	甲状腺疾患患者の看護	
	乳腺疾患患者の看護	
1	乳がん患者の看護　乳房切除術	
	緩和ケアを必要とする対象への看護	
1〜2	緩和ケアを必要とする患者と家族への看護 （がん患者、慢性心不全患者、慢性呼吸不全患者、難病患者）	
3〜4	エンドオブライフケア （症状アセスメントとマネジメント、全人的苦痛、意思決定支援、予期悲嘆、 アドバンスケアプランニング、家族への支援）	
5	臨死期の看護 （身体的特徴、心理的特徴、家族の悲嘆へのケア、代理意思決定支援）	

分　野	専門分野	科目名	老　年　看　護　学　概　論
開講時期	1年次（前期・後期）	単　位	1単位：30時間
担　当 講師名	平　よどみ	実務経験	1−2

テキスト・参考書・使用教材等

系統看護学講座　専門分野
老年看護学：医学書院
国民衛生の動向：厚生統計協会

学習目標

1. 老年期にある対象の身体的・精神的・社会的特徴を学び、老年期にある看護の対象を理解する
2. 加齢に伴う対象の健康状態と高齢者の看護の機能と役割を理解する
3. 社会構造の変化に伴う高齢者の保健、医療、福祉の場における看護師の役割を理解する
4. 高齢者のQOLや人権の尊重、倫理について学び、対象に応じた看護を理解する

評価方法・配点

出席状況・授業態度
提出レポート
筆記試験
100点

回	授　業　計　画	備　考
1	高齢者とは	
2	高齢者の特徴と理解	
3	高齢者にとっての健康	
4	高齢者とQOL	
5〜8	加齢にともなう変化	グループワーク 発表
9	高齢者の生活と家族	
10	高齢者を支える制度	
11	高齢者を支える社会資源	
12	地域包括ケアシステムと多様な生活の場	
13	高齢者看護にかかわる諸理論	
14	高齢者看護における倫理	
15	まとめ	

分　野	専門分野	科目名	母　性　看　護　学　方　法　論　Ⅰ （障害と治療/周産期・新生児）	
開講時期	1年次（後期）	単　位	1単位：15時間	テキスト・参考書・使用教材等
担　当 講師名	障害と治療　：宮村泰豪 周産期・新生児：村上亨	実務経験	1−2 1−2	系統看護学講座　専門分野 成人看護学［9］　女性生殖器 母性看護学［2］　母性看護学各論 ：医学書院

学習目標

1. 人間の性と女性生殖の機能について理解できる
2. 女性生殖器疾患の病態生理・症状・検査・診断・治療について理解する
3. 正常な妊娠・分娩・産褥の経過および新生児の生理機能について理解する
4. 妊娠・分娩・産褥および新生児の異常経過について理解できる

評価方法・配点

筆記試験：総点100点
障害と治療　　：40点
周産期・新生児：60点

回	授　業　計　画	備　考
障害と治療		
1	1．人間の性と生殖 1）ヒトの発生と遺伝的要素 2）性と生殖機能のメカニズム	
2〜3	1．女性生殖器の主な疾患の病態生理・検査と治療・処置	
周産期・新生児		
4	1．正常妊娠の成立機序と母体の生理的変化	
5	1．正常な妊娠・分娩の経過 1）妊娠の経過と診断 2）胎児の発育と健康状態の診断 3）分娩の機転と正常分娩の経過	
6〜7	1．異常な妊娠・分娩・産褥および新生児の経過 1）妊娠の異常　（1）妊娠合併症 妊娠悪阻、妊娠貧血、妊娠糖尿病、多胎妊娠、骨盤位 （2）流産・早産、前置胎盤、妊娠高血圧症候群 2）分娩の異常　（1）帝王切開 （2）骨盤位分娩 3）産褥の異常　（1）子宮復古不全 （2）産褥期の感染症，産褥血栓症，産褥精神障害 4）新生児の異常　（1）低出生体重児、新生児仮死 （2）高ビリルビン血症	

分　野	専門分野	科目名	精　神　看　護　学　概　論	
開講時期	1年次（前期）	単　位	1単位：30時間	テキスト・参考書・使用教材等
担　当 講師名	尾下　真一 小野原　薫	実務経験	1-2 1-2	系統看護学講座　専門分野 精神看護学[1]精神看護の基礎：医学書院

学習目標	評価方法・配点
1. 心の健康とその環境について社会問題の視点から理解する 2. 精神看護の概念と意義、看護師の役割および精神の健康の保持増進について理解する 3. 精神保健医療の変遷と現状の課題を理解する 4. 精神保健活動、精神保健福祉に関する法律を理解する	筆記試験 100点

回	授　業　計　画	備　考
1	精神看護学で学ぶこと	
2～4	暮らしの場と精神（心）の健康	
5～7	精神（心）の危機状況と精神保健	
8～10	現代社会の特徴：社会構造の変化と社会病理	
11～12	現代社会における精神保健の主な問題	
13～14	精神保健医療福祉の歴史と現在の姿	
15	精神保健活動、精神保健福祉に関する法律	

分　野	専門分野	科目名	精　神　看　護　学　方　法　論　Ⅰ （障害と治療）
開講時期	1年次（前期）	単　位	1単位：15時間
担　当 講師名	辻田　高宏	実務経験	1-2

テキスト・参考書・使用教材等

系統看護学講座　専門分野
精神看護学[1]精神看護の基礎
：医学書院

学習目標

1. 精神疾患の病態生理、症状、診断について理解する
2. 精神疾患の検査・治療について理解する

評価方法・配点

筆記試験
100点

回	授　業　計　画	備　考
1	精神科疾患のあらわれ方	
2	精神障害の診断と分類	
3～5	主な疾患の病態生理と症状	
6～7	精神科での治療	

２年次履修科目

基礎分野

専門基礎分野

専門分野

分　野	基　礎　分　野	科目名	情　報　科　学
開講時期	2年次（前期）	単　位	1単位：30時間
担　当 講師名	柳生　大輔 辻　　明美	実務経験	— 1-1

テキスト・参考書・使用教材等

ていねいな保健統計学
白戸亮吉，鈴木研太：羊土社　　他

学習目標

1. PCや基本アプリケーションについて理解し、その機能を使うことができる
2. 看護研究等で必要な統計処理について、その理論が理解できる
   また、実際に手計算やPCを用いて処理を行い、結論を論ずることができる
3. 自分が出した・導いた結果をプレゼンテーションを通じて表現し、他人に伝えることができる
4. 看護における情報リテラシー、ICTについて理解できる

評価方法・配点

情報科学　　：90点
複数回実施する小テストの点数及び課題成果物の評価等に基づき総合的に評価する

看護と情報科学：10点
各回原則2時間の出席を以て各5点

回	授　業　計　画	備　考
情報科学		
1	ガイダンス PCと表計算ソフトの基本操作	柳生先生
2～3	看護研究と統計学・統計の基礎知識 看護で得られるデータと統計的方法 データ入力・データの整理と検索 データの尺度と代表値、基本統計量 度数分布・ヒストグラム 小テスト	入力したデータの保管に必要ですので、2回目の講義時までに各自USBメモリの準備をお願いします
5～5	記述統計 グラフ作成 散布図と相関 回帰直線	
6～7	推測統計 母集団と標本 確率分布 区間推定 小テスト	
8～9	プレゼンテーション プレゼンテーションソフトウエアの使用法 プレゼンテーションの作成技術 オンラインでのプレゼンテーション 実演プレゼンテーション作成	
10～11	仮説検定 検定の手順 平均値に関する検定 比率に関する検定 小テスト	
12～13	プレゼンテーション実演・相互評価	
看護と情報科学		
14	看護のための情報リテラシー	辻先生
15	看護におけるICT	

分　野	基　礎　分　野	科目名	保　健　体　育	
開講時期	2年次（前期・後期）	単　位	1単位：30時間 保健体育の基礎16時間 レクリエーション8時間 リラクゼーション6時間	テキスト・参考書・使用教材等 配布資料
担　当 講師名	保健体育の基礎 ：小原達朗 レクリエーション：吉村正春 リラクゼーション：清水志保	実務経験	ー 15 16	

学習目標

1. 運動、スポーツ、体力についての正しい知識を習得する
2. 疾病と運動の関係について理解する
3. スポーツの実技を通して、運動に親しみ、健康の維持・増進を図る
4. スポーツや遊びなどのレクリエーション活動を通して、健康や生きがいをつくり出し、人とのコミュニケーションを深め、ライフスタイルを豊かにすることを目的とする
   また、高齢者や障害をもつ人達がより充実した生活を作り、QOLを向上させるためのレクリエーション活動について理解する
5. リラクゼーションの意義、内容、方法を考える
6. 呼吸法、ストレッチング法、動作法に関する実技を通して、自分にもっとも適したリラクゼーションの方法を開発する

評価方法・配点

保健体育の基礎
筆記試験　　：60点
レクリエーション
実技、出席状況：25点
リラクゼーション
実技、出席状況：15点
レクリエーションとリラクゼーションの出席状況は、各回原則2時間の出席を以て評価する

回	授　業　計　画	備　考
保健体育の基礎		講義
1	健康の意味	
2	体力とは	
3	疾病と運動	
4	疾病と運動（生活習慣病と運動）	
5	疾病と運動（高齢者の体力と運動）	
6	運動と栄養	
7	トレーニング法	
8	まとめ	
レクリエーション		講義・実技
1	レクリエーションとは（意義・目的）	
2	実技	
3	実技	
4	まとめ	
リラクゼーション		講義・実技
1	リラクゼーションの考え方	
2	呼吸法を習得し、ストレッチをする	
3	自分のリラックス法を考えてみる	

分　野	専門基礎分野	科目名	臨　床　薬　理　学 （薬理学/薬物療法看護）
開講時期	2年次（前期）	単　位	1単位：30時間 薬理学24時間 薬物療法看護6時間
担　当 講師名	薬理学　：胡　錦萍 薬物療法看護：大西 洋世	実務経験	― 1-1

テキスト・参考書・使用教材等

系統看護学講座　専門基礎分野
疾病の成り立ちと回復の促進
[3]薬理学　：医学書院
系統看護学講座　専門分野
基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ
：医学書院

学習目標

薬理学　1. 各系統に作用する薬物の作用機序および副作用について理解する

薬物療法看護　1. 薬物動態、薬剤管理について理解する
2. 薬物療法における看護師の役割が理解できる

評価方法・配点

筆記試験
薬理学　　：80点
薬物療法看護：20点

回	授　業　計　画		備　考
薬理学			
1	末梢神経作用薬（1）	交感神経・副交感神経作用薬	
2	末梢神経作用薬（2）	筋弛緩薬・局所麻酔薬	
3	中枢神経作用薬（1）	全身麻酔薬・催眠薬・抗不安薬・抗てんかん薬	
4	中枢神経作用薬（2）	抗統合失調症薬・抗うつ薬・ 抗パーキンソン症候群薬・麻薬性鎮痛薬	
5	心臓・血管系に作用する薬物（1）	心不全治療薬・狭心症治療薬・抗不整脈薬	
6	心臓・血管系に作用する薬物（2）	抗高血圧薬　他	
7	血液に作用する薬	抗凝固薬・抗血小板薬　他	
8	化学療法薬・抗腫瘍薬		
9	アレルギー・炎症に対する薬物	抗アレルギー薬・ステロイド・NSAIDs	
10	呼吸器系に作用する薬物	気管支拡張薬・鎮咳薬・去痰薬・呼吸促進薬	
11	消化器系に作用する薬物	消化性潰瘍治療薬・制吐薬・下剤	
12	物質代謝に作用する薬物	糖尿病治療薬　他	
薬物療法看護			
1	薬物の特性	薬物の基本的性質、与薬方法 薬物動態、薬理作用、有害作用 薬物効果に影響する要因 輸血剤の種類、有害作用	
2	薬物療法における看護師の 役割と責任	薬物の管理と与薬 治療効果の確認 薬物療法における医療安全	
3	薬物療法と健康管理	服薬アドヒアランス支援 薬物療法における臨床判断	

分　野	専門基礎分野	科目名	公　衆　衛　生　学
開講時期	2年次（後期）	単　位	1単位：15時間
担　当 講師名	有馬　和彦 水上　諭 髙谷　亜由子	実務経験	1−1 4 1−1

テキスト・参考書・使用教材等

系統看護学講座　専門基礎分野
健康支援と社会保障制度[2]
公衆衛生：医学書院
公衆衛生がみえる：メディックメディア

学習目標

1．公衆衛生と予防医学の意義について理解する
2．健康に関する疫学と統計情報について理解する
3．健康増進、疾病予防のための保健活動の実際を理解する

評価方法・配点

筆記試験
100点

回	授　業　計　画	備　考
1	健康と公衆衛生 1）公衆衛生の概念	
2	公衆衛生の対象と活動 1）障害者保健 2）難病保健	
3	公衆衛生と社会 1）社会保障と医療経済	
4	公衆衛生と疫学統計 1）疫学 2）保健統計	
5	公衆衛生の対象と活動 1）母子保健 2）成人保健 3）高齢者保健と介護保険	
6	公衆衛生と環境 1）産業保健と学校保健 2）国際保健と環境保健	
7	公衆衛生と社会 1）保健行政	

分　野	専門基礎分野	科目名	社　会　福　祉	
開講時期	2年次（前期）	単　位	1単位：30時間	テキスト・参考書・使用教材等
担　当 講師名	飛永　高秀	実務経験	―	系統看護学講座　専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[3]社会保障・社会福祉：医学書院

学習目標	評価方法・配点
1．保健、医療、福祉についての基本概念、関係制度、関係する職種の役割について学び、健康や障害の状態に応じた社会資源の活用ができる基礎的知識を習得する	筆記試験 100点

回	授　業　計　画	備　考
1	社会保障制度と社会福祉（社会保障の概念・概要・目的）	
2	現代社会の変化と社会保障・社会福祉の基本的性格と動向	
3	医療保障	
4～5	介護保障	
6	所得保障	
7	公的扶助	
8～11	社会福祉の分野とｻｰﾋﾞｽ（高齢者・障害者・母子・児童家庭）	
12～13	社会福祉実践と医療・看護の連携	
14	社会福祉の歴史	
15	まとめ	

分　野	専門基礎分野	科目名	生　命　倫　理
開講時期	2年次（前期）	単　位	1単位：30時間
担　当 講師名	篠原　駿一郎	実務経験	―

テキスト・参考書・使用教材等
DVD視聴　配布資料

学習目標	評価方法・配点
医療サービスを提供する臨床の場では、適切な医療技術のみならず、倫理的な判断能力が求められる 倫理には唯一の正解はないかもしれませんが、しっかり考えて判断することが重要である 授業を通じて看護職に必要な倫理的センスを養う	筆記試験 100点 終講時の筆記試験では手書きの自筆ノートのみ参照可

回	授　業　計　画	備　考
1～2	倫理、医療倫理、生命倫理とは何か	
3～5	生殖医療における倫理	DVD視聴
6～8	病気治療における倫理	DVD視聴
9～11	先端医療における倫理	DVD視聴
12～14	終末期医療における倫理	DVD視聴
15	まとめと終講試験	

分　野	専門分野	科目名	技　術　論　Ⅱ （看護過程）
開講時期	2年次（前期・後期）	単　位	1単位：30時間
担　当 講師名	大村　康子	実務経験	1−2

テキスト・参考書・使用教材等

系統看護学講座　専門分野
基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ：医学書院
看護診断ﾊﾝﾄﾞﾌﾞｯｸ第12版：医学書院
配付資料

学習目標

1. 看護を実践するための科学的な思考のﾌﾟﾛｾｽを理解し、看護過程の展開の技術を修得する
2. 看護記録としてのPONRについて理解し、その方法を修得する

評価方法・配点

①筆記試験
②課題ﾚﾎﾟｰﾄ提出状況

①②より総合的に評価する（100点）

回	授　業　計　画	備　考
1	看護過程の展開を学ぶにあたって 看護過程を展開する際に基盤となる考え方	
2	看護とリフレクション 事例で学ぶ看護過程の展開 ヘンダーソンの看護論に基づいた看護過程の展開	
3〜5	事例で学ぶ看護過程の展開 アセスメント（情報の収集と分析）	
6	事例で学ぶ看護過程の展開 看護問題の明確化（看護診断）	
7〜9	事例で学ぶ看護過程の展開 情報の関連性の図式化	
10〜12	事例で学ぶ看護過程の展開 看護計画の立案	
13〜15	実施と評価 看護記録 報告	

分　野	専門分野	科目名	技　術　論　Ⅳ （臨床看護総論/学習支援）	
開講時期	2年次（前期・後期）	単　位	1単位：30時間 臨床看護総論16時間 学習支援　　14時間	テキスト・参考書・使用教材等
担　当 講師名	臨床看護総論：平　よどみ 臨床看護総論：田島　純子 学習支援：大西　洋世	実務経験	1−2 1−2 1−1	系統看護学講座　専門分野 基礎看護学 〔2〕基礎看護技術Ⅰ 〔4〕臨床看護総論　：医学書院

学習目標

1. さまざまな健康上のﾆｰｽﾞをもつあらゆる年齢層の人々に、既習の基本的な看護の考え方や知識・技術を統合して応用するﾌﾟﾛｾｽやその看護の実際および実践について理解する
2. 看護における学習支援の目的と意義を理解する
3. 人々の健康にかかわる学習を支援する看護技術について、特徴など基礎的な知識を学ぶ
4. 事例をもとに、学習支援の実際について学ぶ

評価方法・配点

筆記試験
臨床看護総論　：50点
（認定看護師の内容含む）
学習支援　　：50点
授業態度（参加度・協力度）、出欠状況
課題の提出物状況も評価に含む

回	授　業　計　画	備　考
臨床看護総論		
1～3	1. 健康状態の経過に基づく看護 各健康段階の定義　　対象の理解　　看護の役割 各健康段階における看護	
4～5	1. 主要な症状を示す対象者への看護 1）症状が日常に及ぼす影響 2）症状に対する援助	グループワーク 発表
6～8	1. 治療・処置を受ける対象者への看護 1）創傷処置・創傷ケアを受ける対象者への看護 2）手術療法を受ける対象者への看護	認定看護師2時間
学習支援		
1～2	1. 看護における学習支援 学習に関わる諸理論、影響因子 2. 健康に活きることを支える学習支援 健康に関する考え方の変遷 学習支援の場 3. 健康状態に応じた学習支援	
3～4	1. 対象に合わせた学習支援の方法と媒体の工夫 1）指導計画書（個別指導） 2）指導の媒体 教材作成	個人ワーク
5～6	1. 学習支援の実際 2. リフレクション	演習 グループワーク
7	まとめ	

分　野	専門分野	科目名	技　術　論　V （診療の補助技術）
開講時期	2年次（後期）	単　位	1単位：30時間
担　当 講師名	峰　雪絵	実務経験	1-2

テキスト・参考書・使用教材等

系統看護学講座　専門分野
基礎看護学
〔3〕基礎看護技術Ⅱ　：　医学書院

学習目標

1．検査・治療・処置における看護師の役割を再認識し、援助技術を修得する

評価方法・配点

出席状況
課題、ワークシート提出状況
*演習欠席は減点
筆記試験　　100点

回	授　業　計　画		備　考
	1．検査、治療、処置に伴う援助技術		
1～2	1）呼吸や循環を整える技術		
3～4	2）与薬の技術	与薬における看護師の役割　注射法　輸血療法	
5～6	3）症状、生体機能管理技術	検体検査、生体検査(生体情報モニタリング)	グループワーク
7～8	4）診察・検査・処置における技術	侵襲的な検査・処置	グループワーク
9～14	一時的吸引 静脈血採血 点滴静脈内注射 筋肉内注射		演習
15	まとめ		

分　野	専門分野	科目名	地　域　・　在　宅　看　護　方　法　論　Ⅰ （地域ケアマネジメントと多職種連携）
開講時期	２年次（前期・後期）	単　位	１単位：１５時間
担　当 講師名	荒木　奈緒美 永富　幸美 宮崎　郁子	実務経験	18 18 1−3

テキスト・参考書・使用教材等

ナーシンググラフィカ
地域・在宅看護論①
地域療養を支えるケア：メディカ出版

学習目標
1. 地域で生活・療養する人とその家族を支える保健医療福祉制度を理解する
2. 地域における看護師の役割・機能、多職種連携を理解する
3. 地域・在宅看護におけるケアマネジメントの重要性を理解する

評価方法・配点

総点１００点
訪問看護師　　：筆記試験９０点
介護支援専門員：各回原則２時間の出席を以て各５点

回	授　業　計　画	備　考
1	在宅看護を支える制度とシステム ～地域包括支援センター、居宅介護支援事業所（ケアプランセンター）	介護支援専門員
2	ケアマネジメントの理解・地域アセスメント・プロセスについて	
3	地域における多職種の役割と連携～地域包括ケアシステム	訪問看護師
4・5	介護保険制度と介護支援専門員	
6	退院支援と退院調整	
7	訪問看護管理	

分　野	専門分野	科目名	地　域　・　在　宅　看　護　方　法　論　Ⅱ （家族看護と在宅看護過程）
開講時期	2年次（前期）	単　位	1単位：15時間
担　当 講師名	林田　淳子	実務経験	1-2

テキスト・参考書・使用教材等

ナーシンググラフィカ
地域・在宅看護論①
地域療養を支えるケア
地域・在宅看護論②
在宅療養を支える技術：メディカ出版

学習目標

1. 訪問看護の展開のプロセスを理解する
2. 在宅療養者と家族の看護を理解する

評価方法・配点

総点100点
課題レポート
筆記試験

回	授　業　計　画	備　考
1	家族看護～家族の定義、家族理論、家族アセスメント	専任教員
2・3	家族看護～療養者を抱える家族への影響、介護負担を減らすための支援	
4～7	在宅療養における看護過程の展開の特徴	

分　野	専門分野	科目名	地　域　・　在　宅　看　護　方　法　論　Ⅲ （対象のくらしに応じた支援の実際）
開講時期	2年次（前期・後期）	単　位	1単位：30時間
担　当 講師名	大西　洋世 清水　仁司 加納　梓沙 池上　由起 吉野　直也	実務経験	1−2 1−1 1−1 1−3 1−3

テキスト・参考書・使用教材等

ナーシンググラフィカ
地域・在宅看護論①
地域療養を支えるケア
地域・在宅看護論②
在宅療養を支える技術：メディカ出版

学習目標

1. 地域でくらすさまざまな療養者に合わせた支援・医療ケアの実際を理解する

評価方法・配点

総点100点
課題レポート
筆記試験
　専任教員：85点（小児、終末期含む）
　外部講師：15点(認知症、精神障害)

回	授　業　計　画	備　考
1	地域・在宅における介入時期の特徴と看護（在宅療養準備期～安定期）	専任教員
2	地域・在宅における介入時期の特徴と看護（急性増悪期、終末期）	専任教員
3・4	疾病や障がいのある小児とその家族の地域・在宅看護～医療的ケア児他	外部講師
5・6	障がいをもつ療養者とその家族の地域・在宅看護～認知症、精神障害（統合失調症）	外部講師
7・8	慢性疾患をもつ療養者とその家族の地域・在宅看護～COPD（在宅酸素療法）、脳血管障害	専任教員
9・10	終末期にある療養者とその家族の地域・在宅看護～がん（疼痛管理等）、看取り	外部講師
11・12	難病のある療養者とその家族を支える地域・在宅看護～パーキンソン病、ALS、多発性硬化症	専任教員
13・14	独居の療養者に対する地域・在宅看護	専任教員
15	まとめ	専任教員

分　野	専門分野	科目名	地　域　・　在　宅　看　護　方　法　論　Ⅳ （健康とくらしを支える技術の基本）	
開講時期	2年次（後期）	単　位	1単位：30時間	テキスト・参考書・使用教材等
担　当 講師名	林田　淳子 池上　由起 宿輪　海王	実務経験	1−2 1−3 4	ナーシンググラフィカ 地域・在宅看護論② 在宅療養を支える技術：メディカ出版

学習目標
1. 地域・在宅看護における基本的な看護技術を理解する□
2. 地域・在宅看護を実践するための基本的な生活支援技術を理解する

評価方法・配点
総点100点
課題レポートおよび演習の評価
筆記試験（外部講師講義内容含む）

回	授　業　計　画	備　考
1	在宅看護技術とは～訪問看護師に必要な基本姿勢、コミュニケーション、面接技法の実際	専任教員
2	在宅におけるフィジカルアセスメント	
3	在宅における基本的な生活支援技術 ①住環境②移動・リハビリテーション③清潔④衣生活⑤食⑥排泄⑦睡眠・休息	専任教員
4・5	医療依存度の高い療養者と家族への支援技術 ①在宅酸素療法②人工呼吸器療法③腹膜灌流④ストーマ管理⑤経管栄養法 ⑥中心静脈栄養法⑦服薬管理⑧褥瘡⑨膀胱留置カテーテル	外部講師
6	療養上のリスクマネジメント～リスクの特徴、生活環境に潜む危険、災害時	外部講師
7・8	訪問リハビリテーションの実際	外部講師
9～14	在宅療養の継続を支援するための技術（演習）～訪問時のマナー、支援技術演習	専任教員
15	まとめ	専任教員

分　野	専門分野	科目名	老　年　看　護　学　方　法　論　Ⅰ （高齢者看護の基本・実践Ⅰ）	
開講時期	２年次（前期・後期）	単　位	１単位：30時間	テキスト・参考書・使用教材等
担　当 講師名	原口　翔伍	実務経験	1−2	系統看護学講座　専門分野 老年看護学：医学書院

学習目標	評価方法・配点
1．高齢看護の基本が理解できる 2．高齢者特有のリスクとリスクマネジメントについて理解する 3．高齢者に起こりやすい症状に対する看護を理解する	出席状況・授業態度 提出レポート 筆記試験 100点

回	授　業　計　画	備　考
1	高齢者看護の基本 高齢者に対するフィジカルアセスメント	
2	高齢者によくみられる疾患 高齢者のリスクマネジメント	
3〜7	高齢者のヘルスプロモーション 1．転倒予防と歩行・移動を支える看護 2．認知症予防とコミュニケーション ユマニチュード 3．生活習慣病予防	
8〜12	生活を支える看護 1．食生活を支える看護：脱水 2．排泄を支える看護：失禁 3．清潔・衣生活を支える看護：皮膚掻痒症、スキンテア 4．視覚・聴覚障害の看護：白内障、難聴	
13・14	治療をうける高齢者の看護 1．薬物療法 2．手術療法	
15	まとめ	

分　野	専門分野	科目名	老　年　看　護　学　方　法　論　Ⅱ （高齢者看護の基本・実践Ⅱ）	
開講時期	2年次（前期・後期）	単　位	1単位：30時間	テキスト・参考書・使用教材等
担　当 講師名	江里口　康子 伊東　　美穂 大西　　洋世	実務経験	1−1 1−2 1−2	系統看護学講座　専門分野 老年看護学：医学書院 看護診断ハンドブック第12版：医学書院

学習目標	評価方法・配点
1．高齢者に起こりやすい症状に対する看護を理解する 2．高齢者に起こりやすい健康障害に対する看護技術を習得する 3．高齢者の死の捉え方，考え方を理解する	出席状況・授業態度 提出レポート 筆記試験 （看護師の内容含む） 100点

回	授　業　計　画	備　考
	高齢者の看護　看護過程の展開	
1・2	1．誤嚥性肺炎のメカニズムと基本的看護	看護師
3〜11	2．事例の高齢者の看護の展開 1）アセスメント 2）関連図 3）看護診断の抽出 4）看護計画の立案 5）看護計画の実施 6）看護の評価と再計画	
12〜14	終末期の看護 1．身体的アセスメント 2．家族へのケア 3．看取りを終えたスタッフへのケア	
15	まとめ	

分　野	専門分野	科目名	小　児　看　護　学　概　論	
開講時期	2年次（前期）	単　位	1単位：30時間	テキスト・参考書・使用教材等 系統看護学講座　専門分野 小児看護学［1］小児看護学概論　小児臨床看護総論：医学書院 系統看護学講座　専門分野 小児看護学［2］小児臨床看護各論 ：医学書院
担　当 講師名	伊東　美穂	実務経験	1-2	

学習目標	評価方法・配点
1. 子ども観や小児看護の変遷を理解した上で小児看護の対象と小児看護の役割について理解する 2. 子どもにとっての最善の利益や権利について理解する 3. 子どもの成長・発達を理解し発達段階に応じた看護を理解する 4. 子どもをめぐる保健政策の動向と諸問題を理解する 5. 子どもとその家族を取り巻く環境の変化や社会問題とそれに応じた対応について理解する	筆記試験 100点

回	授　業　計　画	備　考
1	1. 小児看護の対象 1）子どもの特徴　2）子どもと家族、社会 1. 小児看護の目標と役割 1）小児看護の目標　2）小児看護の役割	
2	1. 小児看護の変遷 1）児童観の変遷　2）小児医療の変遷　3）小児看護の変遷 2. 小児看護の課題	
3	1. 子どもと家族を取り巻く環境の現状と問題	
4	1. 世界の子どもたち 1）発展途上国の子どもたちの現状　2）世界の子どもたちが直面する問題	
5～6	1. 子どもの権利と看護 1）人権に関する法律　2）児童の権利に関する条約　3）小児看護と倫理的配慮 2. 子ども虐待とアドボカシー	
7～8	1. 子どもの成長・発達（グループワーク） 1）乳児　2）幼児　3）学童　4）思春期	
9	1. 子どもの成長・発達　1）乳児期	
10	1. 子どもの成長・発達　1）幼児期	
11	1. 子どもの成長・発達　1）学童期　2）思春期	
12	1. 遊び、学習の支援	
13	1. 子どもがおこしやすい事故と事故防止	
14	1. 小児看護で用いられる理論 2. 家族の特徴とアセスメント	
15	1. 子どもをめぐる法律と施策 2. 学校保健	

分　野	専門分野	科目名	小　児　看　護　学　方　法　論　Ⅰ （障害と治療）
開講時期	２年次（前期）	単　位	１単位：15時間
担　当 講師名	伊達木 澄人 舩越 康智 小形　勉 里 龍晴 桑原　義典 橋本 邦生 河田　宗一郎	実務経験	1−2 1−2 1−2 1−2 1−2 1−2 1−2

テキスト・参考書・使用教材等

系統看護学講座 専門分野
小児看護学［1］
小児看護学概論　小児臨床看護総論
：医学書院
小児看護学［2］
小児臨床看護各論
：医学書院

学習目標

1．小児期の主な疾患、症状、検査、治療を小児の成長・発達とともに理解する

成績評価の方法

マークシート方式
100点

回	授　業　計　画	備考
1	1．新生児の基礎知識と代表的疾患	
2	1．循環器疾患 （先天性心疾患　川﨑病） 2．腎・泌尿器疾患	
3	1．小児の感染症・呼吸器疾患	
4	1．アレルギー性疾患 2．免疫・リウマチ性疾患	
5	1．血液疾患、悪性腫瘍 1）小児の貧血 2）小児の白血病	
6	1．小児の内分泌・代謝疾患	
7	1．小児の神経疾患	

分　野	専門分野	科目名	小　児　看　護　学　方　法　論　Ⅱ
開講時期	2年次（後期）	単　位	1単位：30時間
担　当 講師名	大村　康子 西川　千賀子 上野　美穂 池上　紀子	実務経験	1−2 1−2 1−2 1−2

テキスト・参考書・使用教材等

系統看護学講座　専門分野
小児看護学［1］
小児看護学概論　　小児臨床看護総論
：医学書院
系統看護学講座　専門分野
小児看護学［2］
小児臨床看護各論：医学書院
看護診断ハンドブック第12版：医学書院

学習目標

1. 健康障害が子どもと家族に及ぼす影響を理解する
2. 子どもの健康障害の経過や症状に応じた各発達段階の看護について理解する
3. 小児看護に必要な看護技術について理解する
4. 小児の看護過程の展開について理解する

評価方法・配点

総点：100点
専任教員　　：70点
（認定看護師の内容含む）
小児科看護師：30点

回	授　業　計　画	備　考
1	1. 病気・障害が子どもと家族に与える影響 1）病気・障害に対する子どもの反応 2）子どもの病気・障害に対する家族の反応	教員
2	1. 周手術期の子どもと家族の看護	看護師
3	1. 終末期の子どもと家族の看護	看護師
4	1. 低出生体重児の看護 1）ハイリスク新生児の特徴	認定看護師 (回の変更あり)
5	1. 障害がある子どもと家族への特徴	教員
6	1. アセスメントに必要な技術 1. 検査・処置総論 1. 検査・処置各論	看護師
7	1）与薬 2）輸液管理 3）採血	看護師
8	4）骨髄穿刺・腰椎穿刺 5）酸素療法・吸入療法	看護師
9	1. 救急処置が必要な子どもと家族への看護 1）主な誤飲事故と処置 2）子どもの熱傷の特徴と重症度および処置 3）小児の蘇生法 4）救急処置を受ける子どもと家族の不安の緩和	認定看護師 (回の変更あり)
10〜14	1. 子どもの健康問題と看護 1）発達段階に応じた看護 2）遊び、学習の支援 2. 小児の看護過程の展開	教員
15	1. 災害を受けた子どもと家族の看護	教員

分　野	専門分野	科目名	母　性　看　護　学　概　論
開講時期	2年次（前期）	単　位	1単位：30時間
担　当 講師名	馬場　直美	実務経験	2

テキスト・参考書・使用教材等

系統看護学講座　専門分野
母性看護学［1］
母性看護学概論：医学書院
国民衛生の動向：厚生統計協会

学習目標

1. 母性看護の基盤となる概念について理解する
2. 母性看護の動向と法律・施策について理解する
3. 女性のライフサイクル各期における健康問題と看護について理解する
4. ヒューマンセクシュアリティについて理解する

評価方法・配点

課題レポート，小テスト
授業への貢献度
筆記試験

上記から総合的に評価する

回	授　業　計　画	備　考
1	母性看護の基盤となる概念① 1）母性とは　2）母性看護の在り方	講義
2	母性看護の基盤となる概念② 1）リプロダクティブヘルス/ライツ　2）ヘルスプロモーション	講義・GW
3	リプロダクティブヘルスケア① セクシャリティ	講義
4	リプロダクティブヘルスケア② 家族計画	講義・GW
5	リプロダクティブヘルスケア③ 不妊治療と看護	講義・GW
6～7	リプロダクティブヘルスケア④ 性暴力を受けた女性に対する看護　児童虐待と看護	講義・GW
8	母子保健統計からみた現状	講義・GW
9	母性看護に関連する施策	講義
10	母性看護に関する法律	講義
11	女性のライフサイクルと家族	講義
12	女性のライフステージ各期における看護①-1 思春期の健康と看護	講義・GW
13	女性のライフステージ各期における看護①-2 思春期の健康と看護	講義・GW
14	女性のライフステージ各期における看護② 成熟期の健康と看護	講義
15	女性のライフステージ各期における看護③ 更年期・老年期の健康と看護	講義

分　野	専門分野	科目名	母　性　看　護　学　方　法　論　Ⅱ （周産期・新生児の看護）
開講時期	2年次（後期）	単　位	1単位：30時間 周産期・新生児26時間 ハイリスクケア4時間
担　当 講師名	馬場　直美 井本　真由美	実務経験	2 2

テキスト・参考書・使用教材等

系統看護学講座　専門分野
母性看護学［2］母性看護学各論
：医学書院
ｶﾗｰ写真で学ぶｼﾘｰｽﾞ　妊産褥婦のｹｱ
：医歯薬出版
写真でわかる母性看護技術
：インターメディカ

学習目標

1. 正常な経過をたどる妊婦・産婦・褥婦および新生児の生理的変化について理解する
2. 正常な経過をたどる妊婦・産婦・褥婦および新生児の看護について理解する
3. 妊婦・産婦・褥婦および新生児とその家族に必要な母性看護技術を習得する
4. ﾊｲﾘｽｸな状況にある妊婦・産婦・褥婦および新生児の看護について理解する

評価方法・配点

出席状況・授業態度
レポート・小テスト
筆記試験：100点
周産期・新生児：80点
ハイリスクケア　：20点

回	授　業　計　画	備　考
1～3	1．妊娠期における看護 1）妊娠期の身体的・心理的・社会的特徴と妊婦健康診査 2）妊娠各期における母体の変化と胎児の成長 3）妊娠期のアセスメントとケア	講義・演習
4～5	2．分娩期における看護 1）分娩の3要素と各期の経過 2）産婦のニードと看護師の役割	講義・DVD視聴
6～8	3．産褥期における看護 1）産褥期の身体的・心理的・社会的特徴 2）産褥期のアセスメント 3）産褥期のケア	講義・DVD視聴
9～11	4．新生児期における看護 1）新生児の身体的特徴 2）新生児のアセスメント 3）新生児のケア	講義・DVD視聴
12～13	5．ハイリスク妊婦・産婦・褥婦の看護 ハイリスク新生児の看護	
14～15	6．母性看護技術 新生児のフィジカルアセスメントとケア バイタルサイン測定、沐浴・更衣・おむつ交換、抱き方・寝かせ方・排気法	演習

分　野	専門分野	科目名	精　神　看　護　学　方　法　論　Ⅱ
開講時期	2年次（前期）	単　位	1単位：30時間
担　当 講師名	原　英二	実務経験	1-2

テキスト・参考書・使用教材等

系統看護学講座　専門分野
精神看護学[2]精神看護の展開
：医学書院

学習目標

1．精神看護に必要な判断と、各症状に関する知識および看護の基本的援助について理解する
2．ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝの過程の振り返りを通して、自己洞察を深める技術を学ぶ

評価方法・配点

筆記試験
100点

回	授　業　計　画	備　考
1～2	1．精神を病む人の特徴と理解 1）精神疾患患者のとらえ方 2）精神障害の回復過程	
3～5	1．精神を病む人への看護援助の基本 1）日常生活援助 2）活用する技法	
6～10	1．各症状とその看護	
11～13	1．精神科治療 1）検査とその看護 2）薬物療法・精神療法・社会療法とその看護	
14	1．ﾌﾟﾛｾｽﾚｺｰﾄﾞについて	
15	1．ﾌﾟﾛｾｽﾚｺｰﾄﾞ演習	

分　野	専門分野	科目名	災　害　看　護　と　国　際　看　護
開講時期	2年次（後期）	単　位	1単位：15時間
担　当 講師名	真辺　　悟	実務経験	1-1

テキスト・参考書・使用教材等

系統看護学講座　専門分野
看護の統合と実践〔3〕災害看護学・国際看護学：医学書院

学習目標

1. 災害および災害看護に関する基礎的知識を理解する
2. 災害が人々の健康や生活に及ぼす影響を理解する
3. 災害サイクルや活動の場に応じた看護の役割を理解する
4. 災害時の応急処置の方法を理解できる
5. 発展途上国における健康・生活上の問題について理解する
6. 国際保健学の概念を基礎に、国際保健医療活動における国際看護の役割について理解する

評価方法・配点

筆記試験
100点

回	授　業　計　画	備　考
1	災害看護の歩みと近年の災害発生状況 災害の基礎知識 災害種類別疾病構造と災害サイクルから見る災害医療	
2～3	災害サイクルに応じた災害看護の役割 （超急性期、急性期、慢性期） 東日本大震災、熊本地震、西日本豪雨の実際を基に構成し看護展開の紹介	
4	被災者のこころのケア	
5～6	超急性期の搬送、トリアージについて	
7	国際看護の概念と看護師の役割 感染症対策（COVID-19対応派遣の実際） まとめ	

３年次履修科目

専門基礎分野

専門分野

分　野	専門基礎分野	科目名	関　係　法　規
開講時期	3年次（後期）	単　位	1単位：15時間
担　当 講師名	横尾　美智代 大西　洋世	実務経験	17 1−2

テキスト・参考書・使用教材等

系統看護学講座　専門基礎分野
健康支援と社会保障制度 [4]看護関係法令：医学書院

学習目標

1. 医療法規の基本的概念を理解し、社会生活と法のつながりについて理解する
2. 健康な生活を維持するため関連法規を学び、社会生活と法のつながりを理解する
3. 看護者の法的責務について理解する
4. 医療事故防止について理解する

評価方法・配点

筆記試験
外部講師：60点
専任教員：40点

回	授　業　計　画	備　考
1	法規の概念 厚生行政のしくみ	外部講師
2	医事法規の理解 1）医療法 2）薬事法	
3	保健・予防衛生法規 環境衛生法規	
4	公害関係法規 福祉関係法規	
5	保健師助産師看護師法	専任教員
6	医療過誤 看護職の法的責任 事例学習	
7	事例学習 看護師などの人材確保の促進に関する法律	

分　野	専門分野	科目名	看　護　管　理　と　医　療　安　全	
開講時期	3年次（前期・後期）	単　位	1単位：30時間 看護管理10時間 医療安全20時間	テキスト・参考書・使用教材等
担　当 講師名	看護管理：木下日出美 医療安全：糟谷操子 医療安全：川添　薫	実務経験	1−2 1−2 12	系統看護学講座　専門分野 看護の統合と実践〔1〕看護管理 看護の統合と実践〔2〕医療安全：医学書院 系統看護学講座　専門分野Ⅰ 基礎看護学〔4〕臨床看護総論：医学書院

学習目標

1. 看護管理（ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ）に必要な基礎的知識を習得する
2. 「医療安全」は、組織的に取り組む安全管理の考え方を学び、
   看護職に多い医療事故を防ぐための具体的方法について学ぶ

評価方法・配点

出席状況・授業への参加状況
課題ﾚﾎﾟｰﾄ
筆記試験：総点100点
看護管理：40点
医療安全：60点

回	授　業　計　画	備　考
看護管理		
1	1. 看護管理（ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ）とは	
2	1. 看護ｻｰﾋﾞｽの提供	
3	1. ｷｬﾘｱ形成	
4	1. 看護ｻｰﾋﾞｽ評価	
5	1. 私はこんな病院で働きたい	
医療安全		
6	1. 医療安全を学ぶことの大切さ 医療安全に関する基礎知識	
7	1. 医療倫理 看護師が遭遇するジレンマ	
8	1. 医療事故 医療事故における看護師の法的責任 看護師に必要とされる注意義務	
9	1. 事故発生のメカニズム・事故分析	
10	1. 療養上の世話の事故防止	
11	1. 診療の補助の事故防止	
12	1. KYT	
13	1. 医療安全とコミュニケーション（Team　STEPPS）	＊45分
14〜15	1. ME機器と医療安全	

分　野	専門分野	科目名	看　護　研　究
開講時期	3年次（前期・後期）	単　位	1単位：30時間
担　当 講師名	永峯　卓哉 伊東　美穂	実務経験	1−1 1−2

テキスト・参考書・使用教材等

看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方：照林社
配布資料

学習目標

1. 研究の必要性を理解し、将来さらに学習し、未知の分野の研究や改善方法を考察する糸口とする
2. 看護研究の特性、研究の型や領域、研究倫理など研究の基本的知識を深め、研究の過程を理解する

評価方法・配点

総点：100点
外部講師　終講試験：50点
専任教員　出席状況、演習内容：50点

回	授　業　計　画	備　考
1	1. 研究とは 1）研究の原点 2）看護領域における研究	外部講師
2	1. 看護研究における倫理 1）医療分野における倫理規則 2）看護研究と倫理規定 3）研究論文の構成要素	
3	1. 看護における文献検索・文献講読 2. 看護研究方法論 1）量的研究と質的研究 2）研究方法とその特徴、具体的な進め方	
4〜5	1. 看護研究（ケーススタディ） 1）研究テーマの絞り込みの実際 2）研究計画書の作成	
6	1. 論文作成の基本的ルール	
7	1. プレゼンテーション 2. 看護研究に関する総まとめ	
8〜9	1. ケーススタディガイダンス	学内教員
10〜11	1. ケーススタディの実際	
12〜14	1. ケーススタディ発表会ガイダンス	
15	1. ケーススタディ発表会	

分　野	専門分野	科目名	臨　床　判　断　能　力	
開講時期	3年次（前期・後期）	単　位	1単位：30時間 救急看護4時間 臨床判断26時間	テキスト・参考書・使用教材等
担　当 講師名	救急看護：與賀田　洋 松井　幸司 臨床判断：峰　雪絵	実務経験	1−1 1−1 1−2	系統看護学講座　専門分野 基礎看護学〔2〕 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学〔4〕 臨床看護総論 ：医学書院

学習目標

1. 臨床を想定した多彩な場面においてﾓﾃﾞﾙ患者に対し安全・安楽に看護技術が実施できる
2. 身体侵襲を伴う看護技術を安全・安楽に実施できる
3. 救急看護の実際について理解する

評価方法・配点

演習 ワークシート
筆記試験(小テスト)
技術ﾃｽﾄ
総点：100点

回	授　業　計　画	備　考
1・2	救急看護におけるフィジカルアセスメント	
3	臨床判断とは 臨床判断のプロセス（気づき、解釈、反応、省察）	
4～6	導入、ワークの説明 事例紹介 事例患者への看護の適応 援助計画の立案	
7・8	臨床判断のトレーニング 訪室したらいつもと違う受け持ち患者の事例でシミュレーションを行う 何に気づいてどう判断して何をしたのかリフレクションする	
9	動画を用いて、何に気づいてどう判断したのかをリフレクションする	
10～12	2回目の演習（患者役は学生が行う） 発表準備	
13・14	各グループで発表 臨床判断演習を通して学んだことを発表する	
15	まとめ	

講師一覧表

資料１（１年次）

資料２（２年次）

資料３（３年次）

資料１　　**2025年度 講師一覧表**　　１年次

教育内容		授業科目		単位	総時間	時間	講師名	所属
基礎分野	科学的思考の基盤	論理学Ⅰ	文章表現	1	15	15	末岡洋	
		論理学Ⅱ	論理的思考	1	15	15	篠原駿一郎	
	人間と生活・社会の理解	心理学		1	30	10	峯晃子	長崎純心大学
						10	楠本優子	長崎大学大学院
						10	応戸絵奈	大村共立病院
		社会学		1	30	30	平野裕子	長崎大学大学院
		教育学		1	15	15	榎景子	長崎大学
		英語		1	30	30	上野葉子	活水女子大学
専門基礎分野	人体の構造と機能	栄養と代謝	生化学	1	30	10	馬場友巳	
			栄養学			20	本岡聖子	長崎みなとメディカルセンター
							西村普賢	長崎みなとメディカルセンター
		微生物学		1	15	15	大沢一貴	長崎大学大学院
		人体の構造と機能	解剖生理学	2	45	20	川添薫	長崎総合科学大学
			病態生理学			25	松本逸郎	
		病理学		1	15	15	松田勝也	長崎大学原爆後障害医療研究所
	疾病の成り立ちと回復の促進	疾病論Ⅰ	呼吸器	1	30	14	高橋淳	春回会クリニック
			循環器			16	深江学芸	長崎大学病院
		疾病論Ⅱ	運動器	1	30	10	朝永正剛	朝永整形外科医院
			脳神経外科			12	吉田光一	長崎大学病院
							日宇健	長崎大学病院
							氏福健太	長崎大学病院
			脳神経内科			8	大塚寛朗	長崎大学病院
							平山拓朗	長崎大学病院
							冨田祐輝	長崎大学病院
							鳥村大司	長崎大学病院
		疾病論Ⅲ	消化器	1	30	18	佐藤彩香	長崎大学病院
							中村俊	長崎大学病院
							小川伸一郎	長崎大学病院
							黒滝航希	長崎大学病院
							亀浜郁佳	長崎大学病院
			内分泌			4	三谷紗貴	長崎大学病院
			代謝			4	土山秀之	長崎大学病院
			眼科			2	大野あかね	本多眼科
			耳鼻科			2	橋本清	ハシモト耳鼻咽喉科医院
		疾病論Ⅳ	血液・造血器	1	30	8	勝岡真一	長崎大学病院
			免疫			8	友川拓也	長崎大学病院
							松下雄太	長崎大学病院
			腎・泌尿器			10	土山綾華	長崎大学病院
							山田翔大	長崎大学病院
			口腔			2	久松徳子	長崎大学病院
			皮膚科			2	小川文秀	おがわ皮ふ科・アレルギー科
専門分野	基礎看護学	看護学概論		1	30	30	伊東美穂	
		技術論Ⅰ	臨床判断の基礎	1	30	14	林田淳子	
						16	峰雪絵	
		技術論Ⅲ	日常生活援助技術	1	30	30	平よどみ	
	地域・在宅看護論	地域・在宅看護総論	看護の対象である人とくらしを理解する	1	30	30	林田淳子	
	成人看護学	成人看護学概論		1	30	30	大村康子	
		成人看護学方法論Ⅰ	呼吸器	1	30	10	中田祐輔	国立病院機構長崎病院
			循環器			10	小松まどか	長崎大学病院
			腎・泌尿器			10	髙比良静波	長崎大学病院
		成人看護学方法論Ⅱ	運動器	1	30	10	太田直樹	長崎大学病院
			脳神経			10	山﨑尚美	十善会病院
			血液・造血器			10	荻原優花	長崎大学病院
		成人看護学方法論Ⅲ	消化器	1	30	14	潟手栞	長崎大学病院
			内分泌・代謝			2	大西洋世	
						2	冨永玲子	長崎大学病院
			乳腺			2	西田彩世	長崎大学病院
			緩和ケア			10	増田弓華子	聖フランシスコ病院
	老年看護学	老年看護学概論		1	30	30	平よどみ	
	母性看護学	母性看護学方法論Ⅰ	障害と治療	1	15	7	宮村泰豪	みやむら女性のクリニック
			周産期・新生児			8	村上亨	済生会長崎病院
	精神看護学	精神看護学概論		1	30	20	尾下真一	道ノ尾病院
						10	小野原薫	道ノ尾病院
		精神看護学方法論Ⅰ	障害と治療	1	15	15	辻田高宏	廣中病院

資料2

2026年度 講師一覧表

2年次

教育内容		授業科目		単位	総時間	時間	講師名	所属
基礎分野	科学的思考の基盤	情報科学		1	30	26	柳生大輔	長崎大学
						4	辻明美	長崎大学病院
	人間と生活・社会の理解	保健体育	保健体育の基礎	1	30	16	小原達朗	
			レクリエーション			8	吉村正春	長崎県レクリエーション協会
			リラクゼーション			6	清水志保	
専門基礎分野	人体の構造と機能	臨床薬理学	薬理学	1	30	24	胡錦萍	
			薬物療法看護			6	大西洋世	
	健康支援と社会保障制度	公衆衛生学		1	15	15	有馬和彦	長崎大学大学院
							水上諭	長崎大学大学院
							髙谷亜由子	長崎大学大学院
		社会福祉		1	30	30	飛永高秀	長崎純心大学
		生命倫理		1	30	30	篠原駿一郎	
専門分野	基礎看護学	技術論Ⅱ	看護過程	1	30	30	大村康子	
		技術論Ⅳ	臨床看護総論	1	30	2	田島純子	長崎大学病院
						14	平よどみ	
			学習支援			14	大西洋世	
		技術論Ⅴ	診療の補助技術	1	30	30	峰雪絵	
	地域・在宅看護論	地域・在宅看護方法論Ⅰ	地域ケアマネジメントと多職種連携	1	15	2	荒木奈緒美	長崎市桜馬場地域包括支援センター
						2	永富幸美	長崎市片淵・長崎地域包括支援センター
						11	宮崎郁子	訪問看護ナーシングバディ
		地域・在宅看護方法論Ⅱ	家族看護と在宅看護過程	1	15	15	林田淳子	
		地域・在宅看護方法論Ⅲ	対象のくらしに応じた支援の実際	1	30	18	大西洋世	
						2	清水仁司	陽の出訪問看護ステーション
						2	加納梓沙	陽の出訪問看護ステーション
						4	吉野直也	フォーリーフ諫早訪問看護ステーション
						4	池上由起	長崎市医師会訪問看護事業所
		地域・在宅看護方法論Ⅳ	健康とくらしを支える技術の基本	1	30	20	林田淳子	
						6	池上由起	長崎市医師会訪問看護事業所
						4	宿輪海王	陽の出訪問看護ステーション
	老年看護学	老年看護学方法論Ⅰ	高齢者看護の基本・実践Ⅰ	1	30	30	原口翔伍	
		老年看護学方法論Ⅱ	高齢者看護の基本・実践Ⅱ	1	30	4	江里口康子	
						6	大西洋世	
						20	伊東美穂	
	小児看護学	小児看護学概論		1	30	30	伊東美穂	
		小児看護学方法論Ⅰ	障害と治療	1	15	3	舩越康智	長崎大学病院
						2	河田宗一郎	長崎大学病院
						2	小形勉	長崎大学病院
						2	橋本邦生	長崎大学病院
						2	桑原義典	長崎大学病院
						2	里龍晴	長崎大学病院
						2	伊達木澄人	長崎大学病院
		小児看護学方法論Ⅱ		1	30	16	大村康子	
						10	西川千賀子	長崎大学病院
			救急処置			2	上野美穂	長崎大学病院
			低出生体重児			2	池上紀子	長崎大学病院
	母性看護学	母性看護学概論		1	30	30	馬場直美	活水女子大学
		母性看護学方法論Ⅱ	周産期・新生児	1	30	26	馬場直美	活水女子大学
			ハイリスクケア			4	井本真由美	長崎みなとメディカルセンター
	精神看護学	精神看護学方法論Ⅱ		1	30	30	原英二	田川療養所
	看護の統合と実践	災害看護と国際看護		1	15	15	真辺悟	日本赤十字社長崎原爆病院

資料3

2027年度 講師一覧表

3年次

教育内容		授業科目		単位	総時間	時間	講師名	所属
専門基礎分野	健康支援と社会保障制度	関係法規		1	15	8	横尾美智代	西九州大学
						7	大西洋世	
専門分野	看護の統合と実践	看護管理と医療安全	看護管理	1	30	10	木下日出美	
			医療安全			16	糟谷操子	
						4	川添薫	長崎総合科学大学
		看護研究		1	30	14	永峯卓哉	長崎県立大学シーボルト校
						16	伊東美穂	
		臨床判断能力	救急看護	1	30	4	與賀田洋	愛野記念病院
							松井幸司	佐世保共済病院
			臨床判断			26	峰雪絵	

令和７年度　長崎市医師会看護専門学校　第２看護学科

シラバス

刊行　２０２５年　３月
編集　第２看護学科　教員
発行　長崎市医師会看護専門学校
〒８５０－８５１１　長崎市栄町２番２２号
ＴＥＬ　０９５－８１８－５８０１
ＦＡＸ　０９５－８１８－５６２８